TDC

東京歯科大学同窓会会報

213

1983年6月

東京歯科大学同窓会会報　第213号

目　次

巻頭言……1
名誉学長就任のご挨拶……2～3
お知らせ……4
本部短信……5
理事会のうごき……6
浅井美幸後援会より……7
逝去会員……8
岡本先生をお偲びして……9～10
学　術……11
母校だより……12～14
母校昭和58年度新入生名簿……15～16
先輩訪問……17～19
会員トピックス……20
支部のうごき……21～22
クラス会だより……23～26
すいどうばし……27～28

（表紙・カット　菊池　豊）

千葉校舎の庭(4)

千葉の校舎には緑の学園という言葉にふさわしく多くの樹木が植えられているが，近代的な建物に調和したいくつかの美しい庭が造られている。

これらを順次紹介してゆく。

大学正門から管理棟入口へ至る前庭

大学正門を入ると右に講堂を見ながら前方に整然と並んだユリの木が眼に入る。

モザイクの敷石の中に大きな植木鉢様の四角い石囲いが管理棟入口の方へ伸びている。濃い茶色の建物と淡い褐色のモザイク路面との間の白い石囲いが重厚さの中に近代的なスマートさを感じさせる。石囲いに一本ずつ植えられたユリの木の青葉が陽光にそよぐ風情は歩む人の足どりを軽くする。

〔グラビア撮影：松井恭平〕

巻頭言

新学長に期待する

副会長　板垣正太郎

千葉校舎の新築を完了し，後進に道を開くべく勇退された松宮学長にかわって6月1日から新学長に高木圭二郎副学長が就任されることになった。

松宮学長のご功労に応えて，故奥村学長に次ぐ2人目の名誉学長として遇する措置がとられたことは誠にご同慶に堪えない次第である。

東京歯科大学は千葉校舎竣工により竿頭一歩を進めた感はあるものの，病院を含む市川問題，水道橋問題等山積する大事業が目白押しで，新学長に期待するところ大である。

高木圭二郎新学長は，千葉校舎新築の事業一つをとってみても，鹿島理事長を頂点とする法人理事会や評議員会の意を体して当時の松宮学長を良く補佐し，教授会のまとめに心血を注いだ先生であり，その姿は我々同窓の良く知るところである。又一方では我が同窓会の監事をお引き受けいただいていたが，80周年記念募金事業が開始されるや，大学側との調整に熱意をもって当られ，募金の税控除措置を講じられ，募金目標満額達成の大きな力となったことなど，最近の業績の一部として忘れてはならないものである。

我が国第一の歯科大学として，又他の官公私立歯科大学の範として，立派な後輩同窓を世に送り，同窓会も増々栄えるよう念ずるものである。

名誉学長就任のご挨拶

松　宮　誠　一

わたくしは，去る３月31日をもって学長の職を辞任させていただきました。まだ任期が多少残っておりましたが，母校の今後を思い，少しでも早く後進への道を開くべきであると自ら考えたしだいであります。

理事会と教授会とはこの心情をよくご諒解下され，わたくしに対し同日付で満場一致をもって名誉学長および名誉教授の称号を贈って下さいました。

歴代の学長の方々のうち，名誉学長の称号を贈られたのは，わずかに故奥村鶴吉学長先生があったのみで，わたくしにとりましては，この上もない栄誉であり，感激のほかはありません。

わたくしは，昭和５年当時の東京歯科医学専門学校を卒業後今日まで約53年間にわたり母校に勤務させていただきました。また，昭和51年に学長に推薦され，いらい今日まで約７年間在職いたしました。

約半世紀の間，わたくしはひたすら母校の発展に微力を捧げて参りましたが，いまその長い間におけるいろいろな思い出が去来いたします。

ことに，在任中世界に誇る千葉校舎の完成をはじめ，教育向上のための６年一貫制の確立，新時代に添うべき全学科カリキュラムの再編成，米国フロリダ州立大学歯学部およびスウェーデン王立カロリンスカ大学歯学部の世界一流大学との姉妹校関係の締結と次代を担う若手教員の交換派遣，花沢学術賞の制定など重要な事業を幸い滞りなく完了することができましたのは，ひとえに鹿島理事長はじめ理事会各位の深いご理解と，高木副学長，金竹学監，高橋，長谷川ならびに森各病院長をはじめ全学教授諸氏の熱誠なご協力の賜物であります。これらの方々にいま心からお礼を申し上げたいと存じます。

わたくしは多年文部省歯学視学委員を歴任し，また，私立歯科大学協会副会長（会長代理）に就任いたしておりましたので，全国の国公私立歯科大学または歯学部の実情を詳しく知る機会を得ました。その結果，わたくしはわが母校がこれら諸大学のうちで，特に将来への発展性を豊かに持っていることをよく知ることができました。

去る３月31日，新校舎の講堂で全学教職員参列のもとに，鹿島理事長からわたくしへの称号記贈与の式が行なわれた席上でも申し上げましたが，その発展性の具体的要素としてはつぎの５条件を挙げることができるのであります。

(1) 他校に比類を見ない高潔な建学精神とこれを中心とする母校関係者の固い団結
(2) 世界的にすぐれた教育および研究施設の完備
(3) 優秀な教授陣と有能な多くの後継者の配備
(4) 強固な基盤の上に立つ財政
(5) 強力な同窓会および父兄会の母校護持

以上は，他校関係者のひとしく羨望するところでありますが，われわれはこれに驕ることなく，大学，同窓会ならびに父兄会の関係者全員がそれぞれの立場における職責を完全に果たすことがきわめて大切であります。重ねて申し上げますが，その協力と結束とが母校の将来の命運を左右することになるのであります。

これからの大学の運営も，社会情勢のはげしい推移とともに日を逐うて非常に困難となって参りますが，わたくしは母校の今後の限りない繁栄をひたすら祈念し，かつ全同窓各位の一層のご多幸を切にお祈り申し上げてご挨拶といたします。

略　　歴

(1) 学歴と称号

昭 和 5 年　東京歯科医学専門学校卒業，直ちに副手勤務
同　15 年　名古屋帝国大学医学部専功科修了
同　15 年　医学博士の学位受領（名古屋帝国大学）
同24年—58年　東京歯科大学教授就任
同29年—現在　全インド歯科医師会名誉会員
同29年—現在　タイ国歯科医師会名誉会員
同25年—現在　国際歯科学士会会員（現在，日本部会長）
同32年—現在　米国リトルロック市名誉市民
同57年—現在　米国フロリダ州立大学歯学部客員教授

(2) 表　　彰

昭 和 56 年　勲二等瑞宝章

(3) 文教関係

昭和32—38年　文部省私立大学研究設備審議会委員
同33年—44年　学術奨励審議会委員
同40年—51年　大学設置審議会委員
同48年—現在　文部省歯学視学委員
同50年—現在　大学設置審議会基準分科会委員
同51年—58年　財団法人日本私立大学連盟理事
同51年—現在　社団法人日本私立歯科大学協会副会長（会長代理）
同56年—現在　財団法人日本私立大学退職金財団監事

(4) 厚生関係

昭和25—33年　歯科医師国家試験委員
同35年—現在　死体解剖資格審査委員会委員
同54年—現在　厚生省医道審議会委員

(5) 総理府関係

昭和40—41年　科学技術会議委員
同46年—49年　第9期日本学術会議会員
同49年—52年　第10期日本学術会議会員（第7部幹事）

(6) 国際関係

昭 和 30 年　アジア太平洋歯学連盟（A・P・D・F）日本代表委員
同31年—48年　国際歯科連盟（F・D・I）学術委員会参与および学会連営委員
同43年—50年　国際連盟世界保健機構（W・H・O）歯学委員
同48年—49年　国際歯学研究学会（I・A・D・R）学術授賞選考委員長

(7) 公　　職

昭和47—58年　東京歯科大学常務理事
同51年—58年　東京歯科大学長
同51年—現在　財団法人野口英世記念会理事
同　58 年　東京歯科大学名誉学長，同名誉教授

著書および論文

歯牙電子顕微鏡図説（和，英両文）	昭和26年
口腔病理学図説（和，英両文）	昭和29年
臨床口腔病理学図説（和，英両文）	昭和29年
図説口腔病理学（実習用）	昭和35年
図説口腔病理学	昭和46年

発表論文　46編　指導論文　126編

お知らせ

○ TDC卒後研修セミナー '83プログラム

総合的な視点にたった歯科診療　加齢への対応〔Ⅳ〕　加齢に対応した歯科診療の実際

◇ 第6回〔昭和58年7月16日(土)〕

9：30～11：30　咬耗と歯周組織　羽賀　通夫（東歯大・補綴）

12：30～14：30　根管処置後の経過を追う　長谷川　正康（東歯大・保存）

14：40～16：30　咬合の変化を通して補綴診療を考える　續　肇彦（神奈川県・開業）

◇ 第7回〔昭和58年9月10日(土)〕

9：30～11：30　顎堤吸収への対応　平沼　謙二（愛知学院大・歯・補綴）

12：30～13：30　高齢化社会における補綴のとりくみ方
—スウェーデンを中心として—　小宮山　彌太郎（東歯大・補綴）

13：40～16：00　補綴診療の加齢をめぐる問題の現時点でのまとめ
関根　弘（東歯大・補綴）

16：00～16：30　◇'84以降の展開　◇受講証の授与・会長挨拶

ところ　経団連会館14階経団連ホール
（地下鉄丸の内線・千代田線・東西線・三田線大手町駅・国電東京駅下車）

○ 第220回東京歯科大学学会総会

と　き　昭和58年11月5日(土)・6日(日)　ところ　東京歯科大学千葉校舎

○ 第12回同窓会全国ゴルフ大会

と　き　昭和58年11月12日(金)　ところ　袖ケ浦カントリークラブ袖ケ浦コース

なお，詳細，申し込み用紙は本誌8月号に掲載いたします。

○ 昭和58年度東京歯科大学同窓会評議員会・総会・懇親会

と　き　昭和58年11月13日(日) 午前10時　ところ　高輪プリンスホテル

東歯大入試問題集頒布の案内

この度，過去10年間に亘る東歯大入試問題集を作成いたしましたので，ご希望の方はお申し込み下さい。

(1) 試験問題集（数学，英語，物理，化学，生物5科目）
(2) 頒布価格　1組　3,000円（送料別途1,000円）
(3) 送金方法　郵送希望される場合は下記あて現金書留にてご送金方お願いいたします。
(4) 〒101　千代田区三崎町2—9—18
東京歯科大学同窓会事務局あて

本部短信

1) 行事出張，その他

3月20日　大分県支部総会　　中久喜理事出張
22日　卒後研修特別委員会（全体委員会）
24日　新入会員オリエンテーション福本，中久喜，溝上理事出席
25日　東歯大第88回卒業証書授与式　河邊会長列席
27日　三重県支部総会　　天野理事出張
28日　歯科衛生士専門学校卒業式　河邊会長列席
4月5日　卒後研修特別委員会（会計）
6日　東歯大入学式　　河邊会長列席
11日　卒後研修特別委員会（プログラム作業委員会）
13日　広報部委員会（企画委員会）
13日　卒後研修特別委員会（全体委員会）
16日　卒後研修セミナー（第3回）
16日　卒後研修セミナー講師，受講者懇談会
16日　会則等検討委員会（第3回）
19日　常任理事会
21日　卒後研修特別委員会（プログラム作業委員会）
23日　福岡県支部総会　伊丹副会長出張
5月9日　卒後研修特別委員会（プログラム作業委員会）
14日　理事会

2) 支部長交替

玉川支部　武部　喜平（昭26.3卒）
　　岩淵　健治（昭17.9卒）
　　（昭和58年1月1日付交替）
淀橋支部　矢郷　正（昭29.3卒）
　　安江　祐二（昭28.3卒）
目黒支部　貞包（サダカネ）　剛男（昭22.3卒）
　　有馬　誠光（昭20.9卒）
中野支部　近藤　安司（昭30.3卒）
　　福田　弘一（昭36.3卒）
滋賀県支部　藤井正太郎（昭19.9卒）
　　佐藤　健司（昭15.3卒）
　　（以上昭和58年4月1日付交替）
板橋支部　早河　淳（昭25.3卒）
　　財部　正郎（昭24.3卒）
　　（昭和58年4月12日付交替）

旧支部長各位には，ご退任に際し，本会事業発展のためご尽力をいただいた功績に対し感謝状と記念品を贈呈いたしました（昭和57年度から）。

お詫び

前号212号（4月発行）会則等検討委員会，委員の委嘱掲載に漏れがありました。ここにお詫び申し上げるとともに訂正させていただきます。

4頁　委員，福本忍氏の次に委員，伊藤哲氏を追加。

昭和58年春の叙勲並びに褒章に当り，その栄誉に浴された本会関係諸先生は次のとおりであります。心からお祝い申し上げます。

勲三等瑞宝章　松井隆弘氏（東京都）
勲三等瑞宝章　山本義茂氏（東京都）
勲四等瑞宝章　岡田信雄氏（新潟県）
勲四等瑞宝章　加藤久二氏（三重県）
勲五等双光旭日章　吉田英二氏（福井県）
勲五等瑞宝章　増田悦蔵氏（埼玉県）
藍綬褒章　米津武之助氏（徳島県）

お願い　昭和58年春の叙勲，褒章受章者記載の7名の諸先生です。上記以外に叙勲，褒章を受章された会員がおられましたら，同窓会本部あてご通報をいただきたくお願い申し上げます。

理事会のうごき

第２回理事会　昭和58年３月19日(土)午後１時30分於母校西別館会議室，出席者29名，議長伊丹副会長（会長の指示による）主な会務報告並びに協議事項は次のとおりです。

1.　会 務 報 告

(1)　会則等検討委員会の委員には，昭和58年１月25日付をもって伊丹，安嶋各副会長，永井，平，福本，伊藤，梅田，菊池各理事以上８名を委嘱

第１回会則等検討委員会を２月10日（土）開催，委員長に伊丹副会長，副委員長に安嶋副会長を選出（会報第212号に掲載）。

(2)　会則等検討委員会は去る２月10日第１回，３月12日第２回を開催，会則施行細則の全般に亘り種々検討。

第３回委員会は答申書の作成を主眼として，４月16日に開催を決定。

次回理事会（５月14日）に会則等検討委員会の答申書を提出予定である旨報告。

(3)　昭和57年度中に退任された千葉県支部長榎本赳氏他31名に，在任中本会事業発展のためご尽力いただいたその功績に対し感謝状並びに記念品を贈呈した旨報告。　了承。

(4)　昭和58年度経常部予算執行状況並びに，昭和58年度共済基金予算執行状況について，２月末日現在順調に運営されている旨報告。　了承。

(5)　支部に属する会員で当該支部転入以前の過年度会費，共済負担金の徴収業務については，それぞれの支部において事情があると考えられるので，関係支部長と充分連絡のうえ，支部長より依頼のあったものに限り，本部より直接請求することとなった旨。　了承。

(6)　第１回名簿編集委員会を２月９日開催。委員長に安嶋副会長，副委員長に中久喜理事を選出。

名簿の型式，収載基準年月日，掲載順位，製作部数，業者の選定，広告掲載，発行完了予定日等につき検討した旨報告。　了承。

(7)　役員等の会務遂行中の傷害保険について昭和58年１月１日安田火災海上保険株式会社と締結。対象者（288名）に対し，関係資料を送付，通知した旨報告。　了承。

協 議 事 項

(1)　東歯大第88回卒業生（166人）に対するお祝金について３月25日第88回卒業証書授与式当日河邊会長より，お祝金10万円と卒業生全員に対して，記念品としての同窓会会員章を贈ることに決定。　了承。

(2)　昭和58年度会員名簿作製（含送料）見積並びに業者の選定について，会員名簿作製に当たり，見積参加業者一世印刷株式会社と東洋美術印刷株式会社の２社から相見積をとり，会員名簿作製予算17,000,000円から勘案した審議の結果，一世印刷株式会社に決定承認。

(3)　昭和58年度会員名簿作製時の広告料収入見積並びに広告代理店の選定について

広告代理店については，本会会報広告並びに前回会員名簿作製時の有限会社佐々木広告社より，広告料収入予定額3,416,000円の見積提出あり，審議の結果，同社に決定承認。

日本海中部地震のお見舞い

去る５月26日の秋田県沖で発生した地震と直後の津波の被害は，秋田県，青森県および北海道地域支部管内に及びました。それらの支部に所属しておられる同窓各位にありましては，その被害が軽微であったとは申せ，ここに心よりお見舞申し上げます。

東京歯科大学同窓会浅井美幸後援会より

1） 特別会費についてのお願い

去る昭和58年２月１日，関口，井上，浅井三後援会合同の幹事長会が開催されました。

席上，時局対策について検討した結果，関口，井上両先生の選挙は３年後であるが，もし衆参同時選挙になれば，衆議院は直ちに解散になり，浅井先生は，すぐ総選挙に突入ということになる。又，同時選挙がなくても任期はあと１年余りしかなく，近い時期に選挙は必至の状況であり，今から，その準備をしておかないと，いざという時に間に合わないということになりました。

３月19日の同窓会全体理事会と浅井美幸後援会常任幹事会に夫々計りましたところ，特別会費として，前回同様１人3,000円を拠出して頂き，同時選挙が回避された時は，選挙の時期まで，そっくり，プールしておくことになりました。当時，同時選挙は必至との見方が有力でした。５月17日現在では少し後日にずれ込む模様ですが，秋口解散も囁かれており流動的な状勢です。特別会費は選挙が始まってから集めたのでは遅いので，ぜひ，その趣旨をお汲みとり下され，会員皆様の絶大なる御支援をお願いする次第であります。

2） 浅井美幸後援会，大阪で開催

５月14日(土)，大阪コクサイホテルで，浅井後援会が，約千名の関係者を集めて盛大に開催されました。本年は浅井美幸君にとって大阪府議として政界入りして20周年の記念すべき年であり，知性と良識ある政治をキャッチフレーズに，益々国政に全力を尽くすとの力強い挨拶がありました。東歯大同窓会からは，地元の伊藤大阪府支部長を初め，支部会員，同級のいづみ会員，本部より後援会の三宅幹事長が出席しました。席上，東歯大同窓会の河邊会長や大阪府歯科医師会の奥野会長の祝電が披露されました。又，来賓として祝辞をのべた矢追秀彦参院議員から，阪大歯学部の学生時代に，当時開業医だった浅井氏と解剖の話をして親しみを感じ，以来同業の先輩として敬意を表しているとの話が出，興味深く聞きました。浅井君には，昨年より日本歯科医師政治連盟の顧問に就任したことでもあり，歯科界に対する一層の活躍を期待すると共に，同君の健康を願い乾杯して祝福し合いました。

（浅井美幸後援会　幹事長　三宅直晴　記）

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し
心からご冥福をお祈り申し上げます。　（敬称略・届出順）

●大 9 卒 福島県支部	熊田一郎（85歳） 〒962　須賀川市加治町9－5	呼吸不全	58. 2. 24
●昭 20. 9 卒 練馬支部	富村　亨（62歳） 〒177　練馬区東大泉町3－16－29	胃癌	58. 3. 6
●昭 8 卒 和歌山県支部	河野　正（73歳） 〒649-61　和歌山県那賀郡桃山町黒川208	心不全	58. 3. 7
●昭 8 卒 京都府支部	伊東正二（72歳） 〒629-25　京都府中郡大宮町口大野663	肝臓癌	58. 2. 24
●昭 28 卒 渋谷支部	佐々木佳夫（54歳） 〒154　世田谷区若林4－4－16	胃癌	58. 3. 10
●大 14 卒 福岡県支部	川又軍太（86歳） 〒806　北九州市八幡西区筒井町1－18	肺炎	58. 3. 3
●大 9 卒 静岡県支部	水野龍吾（87歳） 〒410　沼津市本郷町16－14	老衰	58. 3. 11
●昭 43 卒 尾張支部	伊東英明（43歳） 〒453　名古屋市中村区大閤通5－16	急性心不全	58. 3. 8
●医学校 千葉県支部	大木四平（85歳） 〒289-21　八日市場市1－189－2	心筋硬塞	57. 12. 26
●昭 3 卒 新潟県支部	永野平八郎（77歳） 〒941　糸魚川市上刈	胆管癌	58. 3. 17
●昭 2 卒 世田谷支部	時田藤三郎（80歳） 〒158　世田谷区上野毛町1－21－1	肝臓癌	58. 3. 18
●昭 22 卒 埼玉県支部	江河友和（58歳） 〒350-13　狭山市入間川3－4－8	心筋硬塞	58. 3. 18
●推薦 山梨県支部	清水行親（87歳） 〒400-13　山梨県東八代郡境川村寺尾262	うっ血性心不全	58. 3. 23
●昭 18. 9 卒 青森県支部	佐藤　一（61歳） 〒039-01　青森県三戸郡三戸町二日町13－5	脳内出血	58. 4. 6
●大 12 卒 八南支部	山田平太（87歳） 〒192-02　多摩市関戸547　シャルム第1－601号　鶴原敬子様方	心不全後遺症	58. 4. 7
●昭 7 卒 川崎支部	原島　通（74歳） 〒214　川崎市多摩区菅1154	急性心不全	58. 4. 8
●推薦 長崎県支部	八木力蔵（82歳） 〒859-25　長崎県南高来郡口之津町丁2636	消化管出血	56. 6. 15
●昭16. 12卒 葛飾支部	佐久間五三男（62歳） 〒124　葛飾区金町3－28－7	解離性大動脈瘤	58. 4. 16
●昭 16 卒 兵庫県支部	吉田英二（64歳） 〒669-67　兵庫県美方郡浜坂町浜坂1184－1	胃癌	58. 4. 17
●昭 16 卒 埼玉県支部	永山　仁（63歳） 〒350-02　坂戸市南町11－18	脳腫瘍	58. 2. 16
●昭16. 12卒 兵庫県支部	原田龍太郎（64歳） 〒662　西宮市甲東園1－5－39	心不全	58. 3. 14

岡本先生をお偲びして

榊原悠紀田郎

昭和58年２月22日，愛知学院大学名誉教授岡本清纓先生は御逝去になった。

２月11日が御誕生日であつたので，ちょうど89才と11日目であった。

つつしんで御冥福をいのる次第である。

岡本先生は福島県白河の御出身で，中学生のころ上京され，その後大正６年10月に東京歯科医学専門学校を卒業された。

当時は３年半の教育であった。

在学当時から，歯科学報の編集をしておられた川上為次郎先生のお手伝いをなさっておられ，とくに英文の翻訳などにはそのころの岡本先生の手になるものも混っている，ということである。

こういうことがのちにひろい視野をもって口腔衛生の道にすすまれるいとぐちになったのかも知れない。

御卒業後，北海道斜里で御開業になっておられたことがあったが，すぐ東京にもどられて，ライオン歯磨に入られた。

こうして先生の小児歯科，口腔衛生への道がはじまることとなった。

これには同郷の緑川宗作先生の御縁も深かったのではないかと思う。

このころから口腔衛生の普及活動には力をつくされ，お写真で歯磨訓練の模様などをおみうけしたことがある。

大正11年には東京市の嘱託としてようやく陽の目をみるようになった学校歯科に活動された。

昭和６年の日本聯合学校歯科医会の創立につとめられたことはよく知られている。

昭和９年には「咬合異常の遺伝学的研究」で慶応大学医学部から学位を授与されている。

その後大阪にうつられてそこで活動されたが，終戦後，日本学校歯科医会再建のためにしばしば上京されておられた。

こうしてその再建とほとんど同時に昭和28年12月に，東京医科歯科大学歯学部の口腔衛生学講座の主任教授として赴任され，講座をつくりあげられ，たくさんの研究をのこされた。

昭和35年３月，定年御退官ののちに，愛知学院大学歯学部創設のお仕事に力をつくされ，36年４月，同歯学部開学とともに歯学部長，病院長として，本当の意味での創設の仕事に打ち込まれた。

昭和50年８月に，顧問となられ，第一線を退かれたが，後輩の指導にあたられていた。

この２年余り，お体をこわされて，療養につとめられていた。

いわば功なり名をとげられたわけであるが母校のほこり得るべき先輩のお一人として今後も私たちをみまもって下さることをいのりつつ先生を偲ぶ次第である。

岡本清纓先生御略歴

明治27年２月11日出生

大正６年10月	東京歯科医学専門学校卒業
大正10年４月	ライオン児童歯科院々長
昭和４年２月	「咬合異常の遺伝学的研究」により慶応義塾大学医学部より医学博士の学位記受領
昭和28年12月	東京医科歯科大学歯学部教授（口腔衛生学）
昭和35年３月	同退官
昭和36年４月	愛知学院大学歯学部長兼病院長教授（小児歯科学）
昭和50年８月	同退任 歯学部顧問・名誉教授
昭和58年２月22日	逝去

岡本清纓先生逝く

斎　藤　利　世

岡本清纓先生が去る２月12日になくなられた。14日に密葬が行われ，越えて３月14日に愛知学院大学葬がとりおこなわれたということである。心から哀悼の表を表します。

私は亡父利義が岡本清纓先生の２回先輩だったり，先生が第一線の指揮官となって押し進めた大正初期の口腔衛生事業の同調者であった亡父とのつながりから，父の歿後もお近づきを頂いて今に至ったが，取分け私の学位論文の提出や，山形での歯科衛生士教育のご指導とご庇護とご推輓とは何と申上げてよいやら，その言辞に窮する思いである。

それにしても「２月のご逝去」である。私はアッと息を飲む思いであった。「岡本先生も２月であったのか」と。

「２月」のわけはこうである。

東京歯科大学の，正規の歯科医師教育のスタート・ラインに立ち，そのご100年に達しようとする輝やかしい足どりは万人の認めるところであるが，それを育てはぐくまれた巨人血脇守之助先生が昭和22年２月24日に逝去されたのである。「２月のご逝去」であった。宿題の昇格を果たした母校は「大学葬」を以って先生のご功績に報いた。時に３月６日のことであった。

「２月のご逝去」はしかし，血脇先生が嚆矢ではない。創設者で血脇先生の恩師高山紀斎先生が既に昭和８年「２月」５日に逝去されている。学校葬は２月14日に取り行われて高山先生のご冥福を祈った。

さらに戦中の昭和17年２月８日遠藤至六郎先生が逝去された。当時の東京歯科は学監の奥村鶴吉先生と病院長の花沢鼎先生が双璧となって血脇校長を扶け，附属病院は保存部長西村典治先生，外科部長遠藤先生，そして補綴部長矢崎正方先生，矯正部長斎藤久先生の四天王によってがっちり護られておった，と学生時代の私達は思っていた。

戦後昭和25年２月22日，病院長だった花沢鼎先生が大学予科長となられており，この日に逝去された。またまた「２月のご逝去」であった。

それから10年ほどたって初代学長の奥村鶴吉先生が昭和34年２月４日逝去された。血脇先生も偉かったけれども奥村先生も偉かったと，すべての同窓生がそのご逝去を悼んだ。

続いて昭和37年２月12日西村豊治先生が逝去された。西村先生も「２月」かと私は思った。西村先生は血脇，奥村体制の最後の支えの人ではなかったろうか。それが必ずしも志を得ずに学外に去って久しかった。

そしてそれからまた10年たった昭和47年１月29日，自ら「異端者」を任じて学外にあった矢崎正方先生が亡くなられた。

私はその夜鎌倉の畏友山本為之先生から電話でそれを知らされた。反射的にカレンダーを見上げ，先生の死が「２月」の迫りくるその日であることを知った。

矢崎先生はひとたび学外に去り，奥村先生の懇請に応じて大学に復帰はしたものの，絶えて臨床に立たれることはなく，階下の補綴実習室にあって学生の実技実習の指導に終始された。あれこれ考えて，それがいかにも亡父の同級生であった「異端者」矢崎正方先生にふさわしいものだと私は思った。

しかしというか，やはりというか岡本清纓先生が「２月のご逝去」だった。おだやかそのものの岡本先生の，あの温顔を瞼に浮べながら，いかにも岡本先生らしいなあ，としみじみ思ったことであった。

学　術

臨床 Q.& A.

Q–5　義歯はなぜ夜間とりはずした方がよいのか

――総義歯装着者への指導――

東京歯科大学教授(補綴)　溝　上　隆　男

可撤性の義歯を口腔内に装着したままに放置することによる為害性は，口腔粘膜特に義歯床下粘膜の炎症や粘膜上皮の肥厚の誘発，および残存歯特に補綴装置に隣接する歯牙の齲蝕や歯周疾患の誘発である。粘膜の炎症や歯周疾患は顎堤部あるいは歯槽部の骨の吸収を生じさせる。

無歯顎に対応した総義歯を装着している場合には，少くとも1日に6～8時間は義歯を装着しない状態を持たせたい。義歯床下粘膜の保全ひいては顎骨の保全という観点から，義歯を装着しない数時間を，日常生活における対外的な面で支障のない夜間ないしは就寝時にあてることになる。

歯槽堤の粘膜に直接唾液を触れさせてその自浄性をうながしたり，義歯床下粘膜への無負荷状態を作ることがその目的である。義歯を装着して就寝している者は，就寝時に取り外している者よりもはるかに多くの炎症や上皮の肥厚がみられることや粘膜に直接触れているところがレジンである場合の方が金属である場合よりも炎症や肥厚が多く出現していることが知られている。さらに，粘膜をブラッシングしている者の口腔内はブラッシングしていない者よりも健全な粘膜を呈している。また義歯の清掃や洗口が粘膜を健康に保たせる要因としてプラスしていることも事実である。

以上のようなことから，就寝時に義歯を取り外しておくことは，健全な口腔環境を保たせるために重要な事柄であると言える。さらに義歯床下粘膜をブラッシングさせ，義歯の清掃をもさせるべきである。粘膜のブラッシングに研磨作用のある歯磨剤は不要であり，また義歯の清掃にも歯磨剤は不要である。よほど強固な沈着物を除去するため以外は，いわゆる義歯清掃剤を活用すべきであるが，熱湯とともに使用してレジンを損なうことのないように注意させる。さらに取り外しておく義歯は清潔な水中に保存させて，乾燥によるレジンの変形や変色を防ぐようにさせるべきである。

床下粘膜のブラッシングは歯ブラシの横腹で粘膜を撫でるように使うことから始めさせ，除々に強く行なわせるようにする。

取り外した義歯の保管は水中で行なうべきであるが，単なる容器でなくしっかりと蓋のできるプラスチック製などの容器を使用させ，倒れても水がこぼれ出ないような配慮が必要である。

総義歯使用者の中には就寝時に義歯を装着していないと，翌朝義歯を装着した時に多少咬み合わせがずれているような感じがするという不満を訴えることがあるが，この感じは義歯を装着してから20～30分もするととれるものである。これは，義歯を装着しない粘膜への無負荷状態が粘膜の多少の変形をしたことと，咬みしめるべき一定の下顎位を失った時間のために顎関節部や筋肉が就寝時の姿勢の影響も受けて下顎が特定位にあったためのものであり，時間の経過とともに機能的な本来の位置へ戻るので心配はない。

前号212号の「Q—4.　歯周疾患治療にルートプレーニングはなぜ必要か」の中で平用スケーラーとありますのは手用スケーラーの誤りでした。お詫びし訂正致します。

母校だより

★学位記授与

第292回(57. 11. 8)合格　第293回(57. 12. 13)授与
　渡辺　　肇（保存Ⅱ　第714号甲340号）
　櫻井　正治（小児歯　第715号甲341号）
　板谷　雅一（補綴Ⅲ　第716号甲342号）
　田中　陽一（病理Ⅱ　第717号乙375号）
第293回(57. 12. 13)合格　第294回(58. 1. 10)授与
　市川　重則（理　工　第718号甲343号）
　市川　邦彦（理　工　第719号甲344号）
　小幡　直樹（微生物　第720号乙376号）
　高橋　良昌（生　理　第721号乙377号）
　安達　　康（補綴Ⅲ　第722号乙378号）
第294回(58. 1. 10)合格　第295回(58. 2. 21)授与
　和泉　正行（保存Ⅰ　第723号乙379号）

★沖縄県歯科巡回診療歯科医師派遣

沖縄県と厚生省の依頼による沖縄県歯科巡回診療のため，昭和57年11月４日(木)から約１カ月の予定で佐藤徹一郎教授（保存学Ⅱ）を団長とした歯科医療団が派遣された。団員は，長内幸一助手（口腔外科学Ⅰ），大串 勉助手(保存学Ⅱ)，吉田 正助手（補綴学Ⅰ）の３名で，座間味村(座間味島)の診療に従事し12月３日(金)に帰任した。定期的に派遣される巡回診療により，沖縄県とくに離島の歯科事情は年々向上しているが，さらに恒久的な派遣が望まれている。

★昭和57年度同窓会大学支部総会開催さる

去る12月20日(月)午後５時から約１時間東京歯科大学千葉校舎第１教室において，昭和57年度同窓会大学支部総会が開催された。

総会には学長松宮誠一先生，学監金竹哲也先生，同窓会会長代理・理事杉山邦夫先生のご臨席を賜わり，角田正健幹事司会のもとに挙行された。

見明　清理事の開会の辞につづき佐藤徹一郎支部長，杉山本部理事，松宮学長の挨拶があり議事に入った。

議長には坂田三弥教授が選出され，佐藤支部長による庶務報告，瀬端正之理事による会計報告および高橋庄二郎監事による会計監査報告について審議されたが，いずれも全員一致で承認された。

なお，本総会においては来春新入会員を迎えての支部懇親会を開催すること，および大学創立100年を目途にある額の拠金をすることなどを決定した。

最後に，西村正雄理事が閉会の辞を述べ無事終了した。

ちなみに，支部会員総数は445名で，うち同窓会本部に属するものは384名である。

★小笠原歯科医師派遣交代

昭和57年10月から３カ月にわたり東京都小笠原村の父島および母島に派遣されていた森田欣吾助手（補綴学Ⅱ）に代わり，鈴木洋一助手（口腔外科学Ⅰ）が昭和58年１月から３月末日まで同地に派遣され，歯科医療に従事する。

★歯科衛生士専門学校戴帽式

第34期生の戴帽式は，２月１日(火)午後５時30分から水道橋校舎第２教室において行われた。式は大久保信男学生部長の司会の下に，石川達也校長の訓辞に引続き，来賓の松宮誠一東京歯科大学学長ならびに長谷川正康東京歯科大学水道橋病院

戴帽式風景

長の祝辞の後，高江洲義矩教務部長の呼名により，校長より戴帽を受けた。その後，登院生45名を代表して沖由美さんの誓詞があり，緊張の中にも和かな雰囲気のうちに終了した。

★昭和58年度東京歯科大学大学院歯学研究科学生入学試験実施される

昭和58年2月1日(火)から2月7日(月)までの間に入学出願のあった希望者に対する入学試験が，2月14日(月)，15日(火)の両日にわたって実施された。14日の学力試験，面接と，15日の健康診断の結果，下記の合格者が2月22日(火)に発表された。ただし，国家試験に不合格となった者は入学を取り消される。

昭和58年度大学院歯学研究科合格者氏名

	氏名	講座名
1	村上京子	保存(I)
2	市ノ川義美	口外(II)
3	岡崎正史	補綴(II)
4	栗原由紀夫	口外(I)
5	荻原俊美	補綴(I)
6	山梨清三郎	保存(III)
7	石河信高	口外(II)
8	橋田博純	解剖(I)
9	山口徹也	保存(III)
10	井太家敏和	病理(I)
11	菅泰晴	補綴(II)
12	杉山哲也	補綴(I)
13	三宅晋	口外(I)
14	福本裕	微生物
15	法花堂治	補綴(III)
16	佐々木真澄	補綴(III)
17	吉田浩一	補綴(III)
18	野平倍章	オーラルメディシン
19	古戸充	保存(I)
20	古沢正仁	保存(I)
21	山之内一也	保存(II)
22	関谷栄	保存(II)
23	椎貝哲文	矯正
24	外木守雄	口外(I)
25	芹沢直記	オーラルメディシン
26	吉田英貴	歯科理工
27	佐藤徹	歯科理工
28	上条英之	口腔衛生
29	秋谷理	オーラルメディシン

★水道橋校舎外部ネット貼架設

水道橋校舎本館の老朽化に伴う外装材などの落下事故を防ぎ，歩行者の安全を確保するため，昭和58年1月10日(月)から2月9日(水)までの約1カ月にわたり，本館外部ネット貼架設工事が行われた。写真は工事直前の水道橋校舎本館の雄姿で，これが見おさめの可能性も大きい。

★分離・分析用超遠心機の設置

Beckman 社の L8-80型超遠心機が，1月，基礎棟2階の機能研究室に設置された。

L8-80型超遠心機は分離用としてだけでなく，UVスキャナーをとりつけることにより分析用としても応用が可能である。遠心機本体の他に付属品として，分析用ではUVスキャナー，記録装置UV用アンプ，6穴ローター，セル，分離用では800,000G と552,000G 用のアングルローターと550,000G並びに400,000G用のスウィングローターの4種類のローター，グラジエント作成装置とフラクションリカバリーシステムを備えており，細胞分画，タンパク質の分析など幅広い研究に応用できる。

共用機器管理委員会主催の本機種に対する使用説明会が2月22日(火)と23日(水)に開かれ，各教室から約30名の受講者が参加し，使用許可が与え

られた。管理規定および運営規定については今後検討される予定である。

★海外往来

○Prof. A. H. Melcher (MRC Group in Periodontal Physiology University of Tronto, Canada)

トロント大学の Melchen 教授は，昭和57年12月11日(土)に来校され，(Clinical Significans of Periodontal Biology) と題する講演をされるとともに，学内を見学された。

○重松知寛教授

重松教授（口腔外科学Ⅱ）は，ゴーテンブュルグ大学のブレネマルク教授らのメンバーによるインプラント特別外科的技術講習に参加するためスウェーデンへ昭和58年1月15日(土)から2月10日(木)まで出張された。

○柴田孝典助手，高野直久大学院生

柴田助手ならびに高野大学院生(口腔外科学Ⅱ)の両名は，The 3rd Inter national Symposium Masticatory Function and Dysfunction と American Equilibration Society に参加するため Los Angeles および Chicago へ昭和58年2月10日(木)から2月19日(土)まで出張された。

★人　事

退　職	講師	佐藤　春海	(保　Ⅱ)	57. 12. 31
	助手	大森由里子	(歯　麻)	〃　〃　〃
	〃	鳩貝　尚志	(保　Ⅰ)	58. 1. 31
	〃	安達　　純	(矯　正)	〃　〃　〃
	〃	真崎　正美	(市病耳鼻いんこう科)	〃　〃　〃
採　用	助手	渡辺　　肇	(保　Ⅱ)	57. 12. 1
	〃	櫻井　正治	(小児歯)	〃　〃　〃
	〃	吉村　慎一	(市病産婦人科)	〃　〃　〃
	講師	板谷　雅一	(水病補Ⅲ)	58. 1. 1
	助手	柏木　博道	(市病耳鼻いんこう科)	58. 2. 1
復　職	助手	小林万里恵	(歯　麻)	58. 1. 1
休　職	講師	澤田　　隆	(病理Ⅰ)	58. 1. 1～58. 6. 30
	助手	田辺　　潔	(歯麻)	58. 1. 1～58. 12. 31
休職期間延長	講師	杉山　　直	(歯放)	57. 12. 1～58. 2. 28

医局長交代（昭58. 1. 1付）

水道橋病院（補綴科）

新　任　助手　大平　秀明

旧　任　講師　根岸　康雄

（大学広報第86号より抜萃掲載）

昭和58年度新入生名簿

4月6日(水)午後1時から千葉校舎講堂で入学式が挙行された。講堂には多数の大学関係者，父兄会および同窓会関係者，新入生父兄が臨席し，90周年記念祭歌および校歌のコーラスで式は開始された。式は中久喜学生部長の開会の辞に次いで，国歌を斉唱し，金竹哲也学監の呼名により新入生167名が紹介された。ついで高木圭二郎学長代行の告辞，鹿島俊雄理事長の祝辞があり，新入生を代表して高柳篤史君の宣誓が行われた。さらに学長代行から大学徽章の授与ののち，校歌を斉唱して入学式を終了した。入学式終了後，新入生は各クラスに別れてオリエンテーションを受け，父兄は新入生父兄会ならびに厚生棟食堂での懇親会に臨んだ。各クラスの新入生，出身校，父兄名は以下のとおり。

1年A組

氏名	出身校	父兄名
相庭安雄	(鎌倉学園高)	昇一
青木志乃ぶ	(山手学院高)	光夫
青野正宏	(独協高)	彰
足代弘元	(新宿高)	弘文
安藤智康	(小樽潮陵高)	猛
井沢秀紀	(蒲郡東高)	敏雄
石井聖子	(麹町学園女子高)	俊男
伊藤信之	(成城学園高)	英之
井上雅博	(笠岡高)	執
今泉恵美	(国府高)	功
今村隆一	(山手学院高)	次男
宇佐美浩昭	(清水東高)	昭夫
潤田真	(聖学院高)	和男
江口淳	(村上高)	昭次
大内健二	(日向学院高)	賢夫
大橋千佳	(金城学院高)	昭
大原正	(新島学園高)	五郎
岡本昌樹	(栃木高)	昌美
小野聡	(大分上野丘高)	順二
懸田明弘	(東北学院榴ヶ岡高)	利孝
勝俣至史	(富士河口湖高)	體明
加納茂之	(明治大学附属中野高)	茂雄
川野辺茂樹	(倉敷天城高)	登
菊池毅	(下田北高)	光
香西健司	(金光学園高)	彰
五味弥生	(宝仙学園高)	芳保
小山安徳	(独協埼玉高)	昌道
斉藤友紀	(松阪高)	仁見
櫻井美和	(豊島岡女子学園高)	善忠
佐藤文子	(安積女子高)	健雄
柴田康司	(函館中部高)	明知
角篤	(大社高)	汎
清藤知子	(弘前高)	五郎
高津泰	(小金井北高)	正直
高橋洋樹	(成田高)	武
田沢勇人	(鎌倉学園高)	勇
田中一朋	(土浦第三高)	啓行
田辺靖喜	(富士河口湖高)	勢一朗
土橋博史	(桐蔭学園高)	愛敬
土屋朋未	(屋代高)	博
田昌文	(日大習志野高)	栄圭
長岡未佐子	(土浦第二高)	久夫
成田文雄	(武蔵丘高)	彰東
花田豊実	(立教高)	実
浜田義三	(都城西高)	康彦
早瀬智子	(倉敷南高)	明夫
久永竜一	(東京学芸大学附属高)	知
秀由希子	(白鷗高)	旭
平山明	(千葉南高)	守
堀友子	(富士高)	将
本田良和	(相洋高)	和彦
増田勝実	(昭和高)	勝之
三浦隆徳	(匝瑳高)	隆一
村上清信	(因島高)	茂
山崎真司	(独協高)	萬司
鎗田清明	(桐生高)	秀夫

1年B組

青木一郎	(昭和高)	次郎
秋山仁志	(城北高)	博
朝蔭順子	(日比谷高)	稔
阿部伸一	(芝高)	善磨
猪狩有博	(京華高)	進太郎
石川智代	(足利女子高)	公弘
石塚法久	(千葉商科大学付属高)	和文
伊藤充也	(新庄北高)	修一
今井弘治	(宮崎日本大学高)	武士
岩田公秀	(宮崎南高)	卓延
内田和恵	(銚子高)	宏
江川庄三郎	(本庄北高)	郁夫
大内仁之	(富士高)	正守
大谷顕彦	(津山高)	晴彦
岡田幸太郎	(日比谷高)	幸一

尾崎尚親	(啓光学園高)	貞親
小野寺勇司	(東北学院高)	勇往
梶正裕	(裾野高)	勇
加島知恵子	(活水高)	博
金杉英樹	(千城台高)	五男
川越元久	(駒場東邦高)	武久
河村孝浩	(清水東高)	孝昭
神成勝典	(大館鳳鳴高)	勝夫
木津英樹	(旭川東高)	弘司
小林孝彰	(暁星国際高)	聰介
小室天子	(東大谷高)	甲
佐々木晃子	(東工大工学部附属工業高)	靖男
佐藤充	(逗子開成高)	貞良
柴田真利子	(学習院女子高)	一美
志邨明久	(成城高)	栄一
菅沼興明	(時習館高)	昭雄
清達児	(富士東高)	俊和
高綱厚之	(羽生第一高)	康之
高橋義弥	(桐蔭学園高)	正義
多田宏	(松江北高)	学
田中俊夫	(柏南高)	昭平
田村賢二郎	(宇部高)	徹二
丹沢世史子	(カリタス女子高)	之彦
土橋浩司	(田奈高)	康男
椿浩明	(鎌倉学園高)	篤
中尾禎	(城西大学附属城西高)	貞治
中根徳子	(熊本高)	俊吾
成瀬隆弘	(明星高)	隆雄
橋本寿美哉	(桐蔭学園高)	勝典
林宏己	(安房高)	昭男
原喜久子	(女子聖学院高)	之俊
平井晃	(小樽潮陵高)	茂重
平山夕子	(宇都宮女子高)	浄二
福島大介	(岡山操山高)	範明
増子香里	(東邦大学附属高)	嘉道
間宮秀樹	(湘南高)	亨
宮尾孝	(大清水高)	尚文
森三喜夫	(佐世保北高)	哲
山本晃久	(豊川高)	昭二
吉田昭代	(山手学院高)	義昭
米山寿一	(相模工業大学附属高)	登

1年C組

粟沢重樹	(熊谷高)	巌
池田康子	(成田高)	漠
石川雅子	(栃木女子高)	美紗子
出浦清	(昭英高)	弘
井上真太郎	(暁星国際高)	昇
上野博康	(宮崎西高)	博昭
浦野一郎	(砺波高)	潤
易哲明	(延平中学高等部)	錦銓
大泉輝明	(暁星高)	猛
大多和昌彦	(海城高)	彦一
大津太郎	(沼津東高)	憲一
大西美香	(日大豊山女子高)	三郎
岡田優	(時習館高)	亙
小沢元弘	(暁星高)	元道
賀久浩生	(高明星)	永仁
片野勝司	(独協学園高)	光一郎
金子孝彦	(秀明学園高)	雅英
川崎竜彦	(新潟明訓高)	安則
関徳明	(セント・メリーインターナショナル高)	星良
菊池章宏	(千城台高)	祥皓
工藤浩幸	(青森高)	幸男
桑原三智子	(四日市南高)	義信
小峯久幸	(若松高)	真
斎藤淳	(Neil A. Armstrong 高)	昇
作永麻織	(東邦大附属東邦高)	恭二
佐藤栄理子	(前橋南高)	正夫
澤政樹	(愛知教育大附属高)	國生
新海誠	(日本大学第二高)	聰
杉浦三香	(フェリス女学院高)	秀三
鈴木紀之	(独協高)	隆之
巣山達	(世田谷高)	保
清野栄治	(国学院大学附属国学院栃木高)	晃
高橋健	(松江北高)	信治
高柳篤史	(春日部高)	悦郎
田代友子	(慶応義塾女子高)	友政
田中治	(美唄東高)	智
田中東順	(明治大学附属中野高)	省順
土屋輝仁	(西邑楽高)	穂積
寺田晴道	(桐蔭学園高)	昭道
中山映志	(秀明高)	誠
野沢亜古	(村上高)	譲
野村貴生	(桐蔭学園高)	栄一
浜新児	(日本大学豊山高)	満夫
林成彦	(倉敷天城高)	博司
日浅美恵	(松山北高)	敬三
平田幸一	(大森高)	正樹
福田麻利子	(新城高)	敬三
古川貴弥	(伊勢高)	司郎
前島達也	(早稲田高)	洋志
丸山弘明	(札幌光星高)	良平
村岡斉	(酒田南高)	喜美雄
山口康昭	(暁星高)	昭
山岸久子	(新宿高)	章二
山本啓太郎	(独協高)	啓介
渡辺洋二郎	(安積高)	琢也

先輩訪問

歯科界の向上に60有余年

栃原義人先生を訪ねて

今回の先輩訪問に，本会同窓会名誉会員熊本県歯名誉会員であり，永年，日本学校歯科医会の副会長の要職を務められた大正７年卒の栃原義人先生をお訪ねしました。

熊本市の中心，下通町に建つ栃原ビルの先生の書斎は外部の騒音から遮断された快適なお部屋であり，繁華な街中とも思えない静かな雰囲気の内にお話を伺うことができました。

数年前に少し痛められた腰を庇われるように，ゆったりと和服を召された温厚な先生は，その物腰のなかに，多年に亘る歯科界向上のために努力してこられた風格が滲み出ており，又現今の歯科問題に言及されると88歳にして尚カクシャク，年齢を感じさせない煌めきを示していられました。

興味尽きないお話しを拝聴するうちに，時の経つのを忘れて了い，辞去した後で長時間の応接でお疲れになったのでは，と気が付いた程の楽しい時を過ごさせて頂きました。（同行：昭和19年卒，小堀大介先生）

スタディグループ主宰の元祖

先生は熊本県菊池郡加茂川村（現七城町）の士族で地主の栃原廣吉氏の二男として明治28年３月10日に生誕された。長じて質実剛健の校風で鳴る県立鹿本中学に進まれ，この学校で厳格な教育時代を過ごされたのち大正３年に卒業，翌大正４年母校東京歯科医専に入学された。のちの本校の教授になられた溝上先生の姿も同級生の一員としてあった。

先生は偉大な血脇校長，恩情に溢ふれる奥村先生，花澤先生らの薫陶をうけられ，大正７年24歳で卒業。同時に東大医学部歯科学教室に入室し，石原　久先生に私淑されて研究生生活を送られた。当時東大歯科には多士済々の学究が集まっておりその時期に培われた広い視野での人脈が，その後の先生の業績に大きく役立っている。

大正10年27歳で東大を辞し，生地熊本に帰郷，現在地に開業されたのだが，その翌年の４月より専門学校認定が下りたばかりであった九州歯科医専（現，九州歯大）に，国永正臣校長の懇請をうけ，教授として学生の教育に当られる事になった。開業の傍らその後学校が小倉市に移転するまでの14年間もの永きに亘って，毎週，熊本―福岡間を精勤されたご苦労は並々ならぬ事であったろう

が，これも偏えに後進の教育とその後の生涯を通じて歯科界の向上だけを信条としてこられた先生の情熱を物語っている。

又，精力的な先生は当時地方では稀であった臨床歯科医の研鑽の場として，大正13年に熊本歯科医学会を設立し，昭和19年までの21年間理事長として之を主宰され機会の少なかった在野臨床家の学術向上に務められたのである。

公衆衛生の活動の祖

その後，その歯科医学に対しての指導的手腕は随所に発揮され，昭和4年には五木の子守歌で知られる僻地，五家荘へ熊本医大の協力を得て，内科，眼科，耳鼻科を加えた診療班を組織し巡回診療を実施された。これは全国的にみても僻地巡回診療運動の草分けであったと思われる。後年，保健文化賞を受賞された折，会場に「五ツ木の子守歌」が流れ万感一入であったとのこと。

先生には研究者としても多くの業績があり，なかでも昭和6年より癩の研究に着手し，その成果新病変を発見し，「癩性紅変歯」と命名された。これは口腔病理学に栃原の名と共に永久に記録されるものであり，同郷同窓の誇りともいえる。

昭和14年からは，熊本医大に学んでおられた同窓後輩の，故佐田勝清先生と共同でフッ素の研究にあたられ，日本で最初にフッ素の齲蝕予防応用の臨床実験報告を行われている。

このフッ素の研究は後に，オハグロの如き症状を呈していた重症斑状歯の多発地帯，平島温泉地区（熊本）の浄水道施設の設置を提唱，建議，これを実現させてその後の発生を防ぐなど，公衆衛生面での活動にも役立たせられたのである。

又，先生の大きな功績は学校保健衛生の場で遺憾なく発揮されている。永年学童の齲蝕の予防に努力してこられた先生は，昼食後の洗口場がないのは教室に黒板のないに等しいとの持論と，また学校単位でなく学級単位での洗口場設置を提唱しその全国実施に尽力され，文部省の学校建築規準に定められ実施されるに至っている。又僻地学校巡回診療では，いわゆる熊本方式の実施とその全国普及に力を尽くされてきた。

此の多忙な中にあって先生の著作は母校卒業まもない大正10年に，今田見信氏の主宰される「歯苑」創刊号から歯牙解剖の臨床講義を連載されたのを皮切りに，現在まで研究論文，症例報告，論説など約160編を発表されており，先生の歯科界全般にわたる造詣の深さと，情熱には瞠目のほかはない。駄足ながら歯苑は現在の歯界展望の前身である。所で先生は大の蔵書家であり，これを大切にされることでも有名であった。それを語るエピソードに，戦時中に防空壕を2ツ造られた話がある。その1つは人間の避難用であり，他の1つは蔵書用であった。そして不幸にも予見どおりに罹災されて，自宅，診療所ともに焼失してしまわれたが，蔵書だけは無傷であったという。

死亡診断書問題

若い先生の中には御存知ない方があるかもしれないが，昭和28年まで歯科医には死亡診断書作成について法律上の確たる権利がなかった。

このため口腔外科処置中の死亡についても他科にその死亡診断書の作成を依頼するという現在では考えられない矛盾があった。これはとりも直さず口腔外科の発達と歯科医の社会的地位の向上を阻害するもとになっており，歯科界有識者の等しく憂慮していることであった。

中でも先生はこの問題解決に誰よりも深く係わり尽力された一人であるといえる。

先生の秀れた著書「歯卒の道」の歯科時報4巻38，39号，昭和25年2，3月の項に，その頃の鬱

勃とした心情と，歯界の結束をもって政治力を助長しなければ問題の解決はないと論破した長文がのっているが，この論説が昭和28年に参議院選に当選された，故林了先生の選挙運動に強く作用したことは疑いのないところである。

この選挙における栃原先生の粉骨砕身ぶりは，勉学一途であった先生が公職選挙法違反に問われた程であり，御自身あの時は心命を賭して頑張った，これもひとえに死亡診断書作成権の獲得が歯科界の将来を大きく左右するものである，との強い信念から出たものだったと語っていられる。

そして林参議の目覚しい働きで之の問題は一挙に解決し，これが現在の口腔外科の安定と進展，歯科医師の社会的地位の向上に大いに関与しているのである。

昭和42年11月，これら幾多の功績により先生72歳の時，勲五等双光旭日章次いで81歳で勲四等瑞宝章の再叙勲の栄に燿されたのも妥当なことであり同窓の誇りといえる。

所でその他，先生の話題は実に豊富で世界的解剖学者で母校の誇る，故上条先生の熊本医大に在籍中の猛勉強ぶりに纏わる逸話や，東京大震災の直後に各地の歯科医専に東歯の優れた講師が分散赴任し，歯学の振興に大いに寄与した事など興味深いお話しは尽きなかった。

おわりに，歯科界の発展は東歯あってのものであったが，今後もそうであるよう信じ期待している。又あの水道橋の校舎は恩師血脇先生の偉大な功績を表徴すると同時に血脇先生の銅像でもあるのだから大切に保存してもらいたいと語られたのが印象的であった。

今後も益々御壮健で永年の先生の卓見をもとに私達への御意見，指導をお願いして辞去した次第である。　　（八紫会　中根　俊吾）

今回は，熊本県の栃原先輩への訪問記でしたので，県歯理事の八紫会中根同窓に取材していただきました。母校の先輩は全国でご活躍されておりますので，少しでも多くの先輩のご紹介をしてまいります。地方会員の皆様のご協力を得て同窓会報に永くその業績や所感をとどめたいと存じますので今後共宜敷くお願い申し上げます。

会員トピックス

新刊紹介「チーズの話」—新潮社—

著者　新沼杏二氏（昭和12年卒）

昭和12年卒と紹介したが同氏は卒業を目前にして当時としては余りにも進歩的思想の持ち主であったがために，休学の止むなきに至ったけれども本来は昭和７年組の三辰会員なのである。

学生時代から海外のグラフィック類に精通し雑誌や写真の編集には独特の才能を持っていた。出身地が北海道の故かスキーに長じ，また東歯山岳部や杖痕クラブの育ての親でもある。

同氏は昭和18年ごろ，銀座で開業歯科医院を開業したがお定まりの戦災で焼けだされ，また熱烈な恋愛の末に結ばれた夫人にも先だたれてしまった。

終戦後，日本衛材で歯科用レジンの仕事に従事，やがて雪印乳業に入社した。

彼の持って生れた才能は所を得て光り輝き，以来30有余年，宣伝畑ひとすじに独身を通してチーズと深い仲になってしまった。

彼はもともと食い道楽の食通で料理には一家言を持っていた。仕事と趣味が一致して世界各地のチーズを尋ねて食べ歩き昭和30年ごろに「チーズ散歩」「続チーズ散歩」の著書がある。

今回の「チーズの話」は，この旧著とは異なって，ぐっとくだけた内容で43話から成りたっている。

チーズのにおいには艶笑話がつきものでカマンベールにまつわるナポレオンの「ジョセフィーヌよ，今夜はもうよろしい」は有名だが，男なら思わずニヤリとする個所がいくつもある。

「独身の元歯科医が憑かれた恋」（週刊朝日評）とでも云うべきか，発売以来好評ですでに初版は売り切れ，目下第二刷が書店に並んでいる。

同窓のなかの変り種の書いた年期の入った「チーズの話」の御一読をおすすめする。

（伊丹一男）

新潮選書　「チーズの話」　¥1,000

支部のうごき

東京地域支部連合会

再び学術講演会のご案内

日時　昭和58年9月21日(水)
　　PM 6：30（時間厳守）
場所　東京歯科大学水道橋校舎第4教室
演題　「接着ブリッヂ Adhesion Bridge の理論と実際」
演者　岡山大学歯学部補綴学教室
　　山下　敦 教授

展　示
PM 6：00～PM 6：25及び適宜(会場にて)
「接着ブリッヂの実際例模型等」

昨年9月に,「最近の根管処置の傾向」と題して,長谷川正康教授に御講演頂き好評を得ました。今回は,「アパタイト応用のインプラント」,「接着ブリッヂ」,「Ni-Cr 合金」,関節症,総義歯等,学術委員の間から色々の意見が出ましたが,「接着ブリッヂ」をテーマとして取り上げることになりました。

演者として,この方面の開拓者のお一人である岡山大学の山下教授にお願いしたところ,御多忙にもかかわらず,快よく,お引き受け下さいました。この接着ブリッヂは臨床症用されてからの月日も浅く,接着材料,使用金属,術式,デザイン等についても,まだ色々と検討を加えて改善していかなければならない点も多いのですが,歯を殆んど削らないでできる（むしろ,余り削らない方がよい）ブリッヂで,実際の臨床に取り入れてみる価値のあるものと思っております。前歯,臼歯に応用した模型を講演の前にPM6：00から展示する予定ですので,手に取って御覧下さい。

平日の夜となりますと時間も限られ,遠方の方にとっては,開始時間をもう少し遅らせた方がよいのですが,あしからず,ご諒承下さい。又,東京地域以外の同窓各位でも,会場（定員約200人位）に若干のスペースはあると思いますのでご来会下さいますよう,お待ち申しております。

東京地域支部連合学術担当理事
三宅直晴　　大友　好

関東地域支部連合会

昭和58年度　東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会総会開催通知

1.　日時　9月23日(土)・24日(日)
1.　場所　山梨県甲府市　古名屋ホテル
　　住所　山梨県甲府市中央1丁目7の15
　　TEL　0552—35—1122
　　国鉄　甲府駅より徒歩5分
　　車　中央道昭和インターより約10分
1.　日程

第一日

1.　受　付　（PM2時～3時）
2.　総　会　（3時～4時30分）
3.　講演会　（4時40分～5時40分）
4.　懇親会　（6時～　　）

第二日

親善ゴルフ　（於　昇仙峡CC）

東京歯科大学同窓会　山梨県支部
支部長　　岡　秀哉
TEL　05542-3-0123
山梨県大月市御太刀1-12-30

京　橋　支　部

── 京橋支部（水京会）学術例会 ──

＜日　時＞　昭和58年２月19日　（出席者41名）
＜会　場＞　東京歯科大学水道橋校舎　第２教室
　　＆６階総合診療室
＜テーマ＞　生体に調和を求めて
　　―口腔内咬合調整法―
＜講　師＞　河邊清治先生

去る２月19日(土)午前10時より，午後６時過ぎ迄，長谷川正康水道橋病院長のご厚意に依り，水道橋校舎を使わせて頂き，河邊先生のレクチャーと実際に患者を使ってのデモンストレーションをとり混ぜた勉強会を開催致しました。私共水京会にとりまして，こういった形式での勉強会は初めての試みであったにもかかわらず，定員25名を遙かにオーバーするという盛況ぶりでありました。出席者全員，学生時代に戻った様に，河邊先生のお話を伺い，不安定な義歯をどの様に安定させるかという実際の削合を見せていただきました。７時間にも及ぶ勉強会を終え，改めて河邊先生のバイタリティーと若さに敬意を表すると同時に，大変有意義な一日を過ごすことができました。次回は，７月上旬に，印象採得についての勉強会を予定しております。

尚，当日の概要は以下の通りです。

(1)　咬合論―総論―　顎運動と咬合器
　　咬合器上の削合
　　最終印象・重合
(2)　口腔内咬合調整法―総論―
(3)　デモンストレーション

(4)　口腔内咬合調整法―各論―
(5)　＜映画＞総義歯の臨床「生体に調和した咬合の再現」
(6)　質問
　懇親会

（佐藤　元　記）

クラス会だより

新　窓　会

大正12年3月卒

故 山田平太君を追悼す

（昭和58年4月7日逝く）（88歳）

当時の歯科医専卒業生の多くは，卒業と同時臨床に従事するにも拘わらず，山田君は終生臨床家としての経験なく，終生歯科社会学の探究に専念し，日本大学法文学部に一時在籍する等，その研修の枠広く，また歯科大学各校に亘り教職に就き，その間多くの著書出版があるが，その主たるものは，「日本歯科社会史，日本歯科医学史，日本歯科文化史刊行史」等は日本歯科医学界において著名である。

かくの如く山田平太君は，世に隠れた歯科界の名だたる篤学者であっただけに，にわかに君を失うことは日本歯科医学界のために惜しまれて仕方がない。君何卒安かれかしと心から冥福を祈る。

（文，大正12年卒業の同窓，福岡市在住小田喜右衛門）

十　六　会

昭和19年卒

九州旅行・総会迫る!!

来る9月15日・16日・17日，2泊3日の西九州の旅は，広田明種君をはじめ九州在住の11名の諸君の周到なる順備により開催のはこびとなりました。いつも出席の諸君には既にお知らせ致しましたが，今回から出てやろうと思われる方は広田君迄御連絡下さい。

5月20日，十六会東京会を霞ケ関ビル33階の東海大学校友会館に14名の諸君に集まってもらって，この件の外に来年度は十六会卒業四十周年にあたりますので，記念事業，及び会誌発行の件が話題となりました。

会誌の編纂については，飯田精一，城所進の両君が委員となってくれましたので，今期幹事の，増田実，小沢登，福本忍と共に四十周年記念誌の発行に，来年の総会を期日として努力することになりました。クラス会員の協力により内容のある本にしたいものです。

来年の四十周年記念の総会は，久しぶりに東京で行い，東京歯科大学千葉校舎の見学，恩師との会合，或は近郊の一泊旅行等を計画していますが，未だ具体的になっていません。三十周年の会誌の題名は「嗚呼卒業三十年」でした。今回四十周年会誌の題名は，児玉正義君曰く「嗚呼，嗚呼」だと。　（福本　記）

五十一期会

昭和20年9月卒

1) 学友富村　亨君の逝去を悼む

世は空蟬の無常，命は蜉蝣の定めなきに似たり。富村君が去る3月6日夜10時45分江古田の鈴木病院で胃癌にて亡くなられた。並木君から突然の訃報に接し驚愕茫然だった。3年前胃潰瘍の手術で入院し昨年は都立駒込病院に入院後去る1月22日鈴木病院に入院中であった。7日通夜は大泉の妙延寺で行われ酒井代表幹事，二日市，増田(一)，栗田，海野，桜井(正)，中村，岡(一)，鶴岡，並木，安井の諸兄が弔問，8日の葬儀には芳賀，田上，並木，安井の諸兄が参列され痛恨の別れを惜んだ。富村君は人情味溢れる親分肌の豪放磊落な性格で酒をこよなく愛した51期会の名物男だった。東京歯科大学同窓会練馬支部長，母校父兄会役員等をつとめていただけに他界されたのは残念である。幽明境を異にした今ご冥福を祈ると共に玄静院酔聖日亨居士の霊に心から哀悼の意を表します。

2) 学友小沼四郎君の消息

昨年12月下旬慶応病院に入院し1月18日胆石と胆嚢剔出手術を施行2月上旬退院目下自宅療養中です。早速51期会より御見舞を送付しました。小沼君の快方に向われるのを心から祈念します。

3) 東京会開催の報告

夢の間惜しき春なれや，4月14日新宿聚楽で定刻7時に酒井代表幹事開会挨拶まずお互いの健康を祝し乾杯！鈴木君，富村君の逝去と小沼君に御見舞の報告後新潟総会の中間状況が説明され50名の参加がある由盛会を期待したい。会務報告で鶴岡幹事より昭和60年の卒業40周年記念総会を目標に名簿の改訂版作成計画が発表され資料の蒐集アンケートを早く準備する様述べられ会計報告を二日市幹事が説明し歓談の宴に旧交を温めた。本日の出席者は次の通り，藤井，二日市，芳賀，橋本，早川，春日，片山，久木留，増田(一)，松原，中村，並木，岡(一)，酒井，桜井(正)，鶴岡，田上，和光以上18名。今迄より顔ぶれも多く楽しい会合であった。早川副幹事閉会。　　(鶴岡　記)

いとし会

昭和24年卒

暑かったり，寒かったりの異常な気候ですが，いとし会の会員の皆様，如何がお過しですか。各地で各役職で大いに頑張って居られることと思います。昨年の塩原温泉での総会には多数の会員及び奥様方御参加下さいまして，ありがとうございました。本年昭和58年は卒業して35周年になります。何か思い出にと幹事一同頭をひねりまして，北海道旅行を計画致しました。秋の東北海道の雄大な景観と味覚を楽しんで頂くよう考えましたので，本年も是非御同伴で多数の先生方の御参加をお待ちする次第です。このいとし会便りが着く頃迄には詳しい案内が幹事会の方より発送到着する予定ですので，早速に振って出席されることをお願い申し上げます。

私本年も父兄会の役員として3月25日の卒業式及び4月6日の入学式に参列して来ました。卒業の方は会員の子弟として千葉県の井上裕君のお嬢さんの井上裕美子さん等7名の方々がめでたく卒業され，又本年入学された方々は岡山県の早瀬明夫君のお嬢さん外5名の子弟がこれ又めでたく入学された様です。参考まで。

歯科界をとりまく世の中の情勢も決して平穏ではない様です。体には充分気をつけられて頑張って下さいます様お願い致します。　　(森　記)

千　秋　会

昭和27年卒

北海道での総会，懇親会，観光等の詳報

前号(212号)でもお知らせしましたが，さらに，北海道現地幹事の巣山君から詳報が届きましたのでご案内いたします。各位宛の案内状は個別に近々郵送しますので是非ご参加下さるようお願いいたします。

記

◎日時　昭和58年10月8日(土)，9日(日)，10日(祭)　(2泊3日)

●日　程

10月8日(土)

午後5時　定山渓グランドホテル集合

午後6時30分　総会並びに懇親会開催

定山渓グランドホテル1泊

10月9日(日)

ホテル発(8：30～9：00予定)→中山峠→喜茂別(アスパラの名産地)→倶知安→積丹半島→(盃温泉にて昼食)→床市(ニッカウイスキー工場)→小樽(北一ガラス工場見学)→札幌

札幌ビール園にて夕食会後

札幌京王プラザホテル1泊

10月10日(祭)

朝食後チェックアウト

●市内観光……ショッピング

大通り公園→大倉山ジャンプ台(90米級)→もいわ山→真駒内アイスアリーナ(冬期オリンピック会場)→市内一時計台一ショッピング→羊ケ丘展望台

ゴルフ組と合流⇨千歳空港にて解散

●ゴルフ　札幌広島ゴルフコースにて

(旧北海道カントリークラブ広島コース)

18H　ストロークプレー→受賞式の後市内観光組と合流⇨千歳空港にて解散

●参加費　　1名50,000円

懇親会，宿泊2泊(食事代)バス代を含む

但しゴルフ参加費，市内観光(10日)の昼食代は別会計。また，10月8日(土)指定便利用者については千歳空港より定山渓までの無料バスを用意します。

●その他

航空券の手配，ゴルフパックの輸送，道内観光等について希望者は交通公社札幌支社にて取扱いますが手続は案内状に同封します。

(三浦　記)

六　喜　会

昭和33年卒

昭和58年度総会開催案内を配布いたしましたところ残念ながら参加希望者が非常に少なく企画を中止せざるを得なくなりました。

ちなみに参加状況をご報告いたしますと，全会員130名中，返信をいただいた方80名(61.5%)，その中で参加予定者17名(13%)でした。

従って，本年10月8日～10日の瀬戸・松山の総会は全面的に中止いたします。

なお，本年11月14日より第71回ＦＤＩ世界大会が東京で開催されることとなっております。また，母校同窓会評議員会，総会が前日の13日に開催されます。以上の状況から本年度六喜会総会を，**昭和58年11月12日(土)，於，東京新高輪プリンスホテル**にて開催すべく準準しております。

詳細は追って各会員へご案内申しあげますが奮って参加されるよう切望いたします。(宮原　記)

十　期　会

昭和37年卒

もう初夏の香る5月21日，異国情緒豊かな港町横浜にて，第11回総会が行われた。まず午前11時，40名が水道橋より稲毛に向い新校舎を見学，その一行も帰着した午後5時より，横浜ナイト・プラザにて総会を開いた。

今回の参加者は合計79名の多きに達し，うち58名がホリディ・イン・ヨコハマに宿泊した。また専門課程1年当時副主任の大内英男，恩田千爾両先生の御参加をいただき，両先生を交えて旧交を温めた。形どおり，開会の辞（安藤，高江洲），野間会長挨拶，添島議長選出のあと，松本庶務，小坂，田中会計，溝上，古川監査，安藤評議員の報告があり，つづいて千葉校舎落成記念卒業内容ならびにその費用60万円を各自4千円負担する提案があって可決確定，ついで次期会長には松本庶務が推挙され決定した。彼は長期にわたり，会の発展のために労を惜しまず貢献し，文字どおり大黒柱であった。今後を期待し，次期総会についても一任された。今回も従前どおり野間，酒泉両教授に飾皿の就任祝いを贈呈，閉会の辞（金山）に次いで懇親会に進み，カラオケりあ，ナマオケありの乱発で会は増々盛り上ったが，午後10時，橋本，続両地元世話人の労に感謝しつつ散会した。

子弟の大学進学（東歯大11名）が話題になるなど，またまた一世代分年老いたことに気づいたような年を取り，学成り難きを嘆じ合い，または各地の業界での活躍の状況など，すでに20周年記念誌でもご覧になったような人生の充実を語り合ったが，それにしてもこの20年間物故者のない健康を全員よろこびあった。　（古川　記）

すいどうばし

読売新聞社長遺憾の意を表す

清　藤　志　郎（昭和15年卒）

地震をはじめ，災害は何時起るか解りません。私の場合は，天災というより人災の部類に属しますが，昭和56年１月読売新聞が「歯科，陰の実力者，元都歯会長清藤志郎，社会保険診療報酬不正発覚」の見出しで，全国版社会面にトップ記事として，大々的に報道しました。

同窓生の皆様には，定めし肩身の狭い思いを，おかけしたかと恐縮しておりました。

これ偏に，私の不徳の致すところと，反省しておりますが，この度，読売側が誤報を認め，私の名誉が回復されました。

実は，御承知の方も多いかと思いますが，読売新聞が報道する以前に，清藤が３年間で１億円以上の不正請求をしていると，無責任な匿名の投書が行政庁をはじめ，各所に千通を越えるほど出廻り，二，三の週刊誌が面白半分にこれを取り上げて報道し，私も週刊誌に出るようになれば，一応，男の勲章ぐらいに考えて無視して参りました。

しかし，世界最大の発行部数を誇る読売が大々的に報じたとあれば，争うに不足なしと決断し，証拠固めに手間どり乍ら，反対する支持者や親戚を説得して，約半年後（時効は３年）名誉毀損事件として，告訴に踏み切った次第であります。

その結果，９回目の東京地裁公判で，読売側は全面的に兜を脱ぎ，小林与三次社長は遺憾の意を，社会部長は深く遺憾の意を表して，判決と同じ効力を有する法廷和解が成立し，実質的に全面勝訴の形となりました。

和解条項要旨は，次のようなものであります。

第９回口頭弁論調書（和解）

事件の表示　昭和56年(ワ)第12974号

期日　昭和58年１月31日午後１時

場所及び公用の有無

東京地方裁判所民事第37部法廷で公開

裁判長裁判官　榎本恭博

裁判官　滝澤孝臣　奥田正昭

裁判所書記官　宮崎鉄蔵

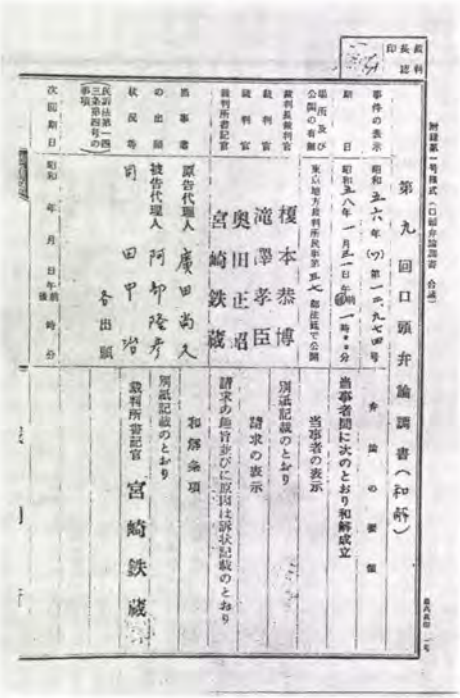
原告代理人　澤田尚久

被告代理人　阿部隆彦　田中　治

各出頭

和解条項　別紙記載のとおり

裁判所書記官　宮崎鉄蔵　㊞



第九回口頭弁論調書（和解）

事件の表示　昭和五六年（ワ）第一二九七四号　弁論の要旨

期日　昭和五八年一月二一日午前一時二〇分　当事者間に次のとおり和解成立

裁判長裁判官　榎本恭博
裁判官　滝澤孝臣
裁判官　奥田正昭
裁判所書記官　宮崎鉄蔵

当事者の表示　別紙記載のとおり

請求の表示　別紙記載のとおり

和解条項

原告代理人　廣田尚久
被告代理人　阿部隆秀
同　田中治

裁判所書記官　宮崎鉄蔵

別　記

昭和56年1月27日付読売新聞朝刊で報道した「歯科“陰の実力者”不正発覚」の記事について，貴殿から，「記事に360万円の不正請求をしたとあるが，本件はそうではなく，過誤請求だったから，いったん返還したものであって，その後再請求により調整を行った。この記事によって迷惑をうけた。」旨の指摘がありました。この点については貴殿の指摘どおりであり，また関連する表現の中で不十分な点があったこととあわせ，深く遺憾の意を表します。

以上

昭和58年1月31日

株式会社　読売新聞社
編集局社会部長　長沢　功　㊞

清藤志郎殿

右は正本である。

昭和58年1月31日

東京地方裁判所民事第37部
裁判所書記官　宮崎鉄蔵　㊞

和　解　条　項

1. 被告は，昭和56年1月27日付読売新聞朝刊で報道した「歯科“陰の実力者”不正発覚」の記事について，原告に対し遺憾の意を表明し，本日，別紙記載の書面を交付し，原告はこれを受領した。
2. 略
3. 略
4. 略

筆者注，本文中，原告とは私で，被告とは読売新聞社長小林与三次氏であります。

昭和58年2月25日（金曜日）

読売新聞が—
清藤氏に遺憾の意
和解成立

清藤　志郎氏

清藤志郎氏が歯科新聞社を相手取り訴えていた事件は，去る一月二十一日第九回公判で，読売新聞社長小林与三次氏が清藤氏に遺憾の意を表し，和解が成立した。これで，実質的に清藤氏の全面勝訴の形となった。

清藤氏と読売新聞社の紛争は次のとおり。

○　○　○

一，当事者間に東京地裁民事四部（裁判長榎本恭博）で和解成立。

二，原告は，その余の請求を放棄する。

三，原告は別紙記載の和解条項の外，本件に関し，何らの請求をしないことを確約する。

四，訴訟費用は各自の負担とする。

東京都千代田区大手町二丁目七番一号
被告　株式会社読売新聞社
右代表者代表取締役　小林与三次
右訴訟代理人弁護士　田辺信彦
同　阿部隆秀
同　田中治
同　和解条項

一，被告は，昭和五十六年一月二十七日付読売新聞朝刊で報道した「歯科“陰の実力者”不正発覚」の記事について，原告から，記事に三百六十万円の不正請求とあるが，本件はそうではなく，過誤請求だったからいったん返還したものであって，その後再請求により調整を行った。この記事によって迷惑をうけた。この点については貴殿の指摘どおりであり，また関連する表現の中で不十分な点があったこととあわせ，深く遺憾の意を表します。

以上

昭和五十八年一月三十一日

株式会社読売新聞社編集局社会部長　長沢功
清藤志郎殿

（医歯薬新報第837号）

◆投稿規定

(1) 原稿締切

原稿の締切りは**奇数月の10日**までとし，原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に**横書き**とし，便箋などの使用はご遠慮下さい。

なお，会報専用の原稿用紙(22×10字行)がありますので，ご一報下されば送付いたします。

(3) 投稿字数

① 随想，詩，短歌，時評などは**1編1,500字**以内。

② 支部のうごきは，**800～1,000字**。

③ クラス会便りは，**700～800字**。

④ よろず告知板は，**200字以内**。

⑤ 写真は**一葉200字**に換算して下さい。

⑥ 折角ご投稿いただいても，規定字数を超えた場合は，掲載いたしかねますのであらかじめご諒承下さい。

(4) 写真等の返却

写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真などの場合は，その旨書き添えて下さればご返送いたします。

◆へんしゅうこうき

☆ 松宮学長はわれわれ全同窓にも協力と結束を呼びかけて名誉学長にご就任されました。高木新学長は温厚で頭脳明晰な努力の人と聞いております。その指導力にご期待申し上げたいと存じます。

☆ 指導力といえば最近とみに世界的レベルで求められています。血脇守之助先生の建学の精神「歯科医師である前に人間であれ」の中に良き指導者たれとの願いがこめられているように思います。また，先輩訪問で栃原義人先生も歯科界の発展は東歯あってのものであり，そう信じ期待しているとあります。それでは良い指導者とは「知力，気力，徳力」三位一体が必要で，その中でも特に「徳」が備わっていなければなりません。皆様「得」を得る事も大事ですが「徳」を磨く事もお忘れなく。

☆ 同窓会創立80周年記念募金にご協力いただいた方々のお名前を刻んだ銘鈑の除幕式が7月16日(土)千葉校舎において行われます。同窓の母校愛が結束した記念のしるしです。母校を訪れた際には是非ご覧下さい。

☆ 世は正にコンピューター時代，サラリーマンは遅れまいと，パソコン，マイコンを買い込んで自宅で特訓しているようです。ところで167名の新入生の皆様を迎え，まことにおめでたい限りです。皆様が母校を卒業して歯科医師となり同窓会員となる頃にはわれわれの分野もコンピューターの導入が盛んになると思います。今からマイコンに親しんで時代の先取りとまではいかなくても乗り遅れないようにすべきでしょう。

(仲谷純三)

広報担当理事：梅田昭夫，溝上隆男，喜田正史，伊藤　哲，仲谷純三，平　佐武郎，馬嶋　博，野上順平
広報部会報編集委員会　委員長　櫻井善忠，副委員長　藥師寺　仁，
委　員　中久喜　喬，中村泰之，山本啓介，古川　正，松井恭平，林　量一

昭和58年6月15日　印刷
昭和58年6月20日　発行
東京歯科大学同窓会会報　第213号

編集・発行人　梅田昭夫
東京歯科大学同窓会
〒101　東京都千代田区三崎町2－9－18
電話(03)262－3421(内線226)
(03)264－4859(直通)

印刷所　一世印刷株式会社
東京都新宿区下落合2－6－22
電話(03)952－5651(代)

高輪と品川、ふたつのプリンスホテル

両プリンスホテルは、東京歯科大学同窓会の皆さまに特別サービスをご用意して、ご利用をお待ちしています。

由緒ある日本庭園を配して緑の中に静まる高輪プリンスホテル。500の客室、10をこえる各種レストラン、バー。 つねにプリンスホテルならではの、まごころをこめたおもてなしで内外のお客さまをお迎えし、真のくつろぎを提供いたしております。

都内でも有数の設備を誇るスポーツランドをはじめとして、のびのびと楽しめる新しいタイプのホテル、品川プリンスホテル。ビジネスでのご利用はもちろん、ご旅行にもご家族でのレジャーにも幅広く、気軽にご利用いただきたいホテルです。

●ご宿泊●

特別割引料金にてご利用いただけます。
ご予約は、会員専用の予約直通電話をご利用ください。
高輪プリンスホテル (03)445-1855　品川プリンスホテル (03)449-3581

★上記専用電話以外のご予約につきましては、特別料金によるご宿泊は、できませんのでご了承ください。

●ご婚礼●

同窓会の皆さまと皆さまからご紹介いただいたご婚礼に対して、
各種のサービスがございます。
サービス適用ホテルは、高輪プリンスホテル・品川プリンスホテル・麻布プリンスホテル・白金プリンス迎賓館です。

★ご予約の際は必ず東京歯科大学とお申出ください。

高輪プリンスホテル
東京都港区高輪3-13-1 〒108 TEL.(03)447-1111

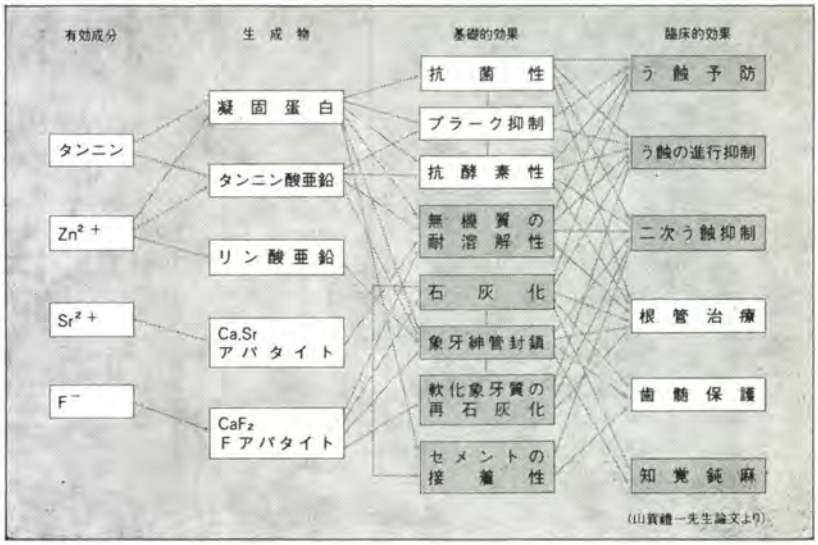
品川プリンスホテル
東京都港区高輪4-10-30 〒108 TEL.(03)440-1111

セメントにHY材がなぜ必要なのでしょうか?

HY材開発者の、大阪大学名誉教授　山賀禮一先生の論文によりますと……

HY材(タンニン・フッ化物合材)は、歯質の成分と結合して、細菌による侵襲から蛋白質を保護します。さらに、リン酸カルシウムを強化して耐溶解性を向上させ、石灰化を促進するという働きも持っています。同時に、象牙細管を封鎖して、外来刺激を遮断するものであります。

HY材の基礎的効果と予想される臨床的効果



(山賀禮一先生論文より)

「歯質への新しい効果が期待できる」

と、いわれるHY材だからこそ松風は意欲的にセメントに配合してHY-BONDシリーズを誕生させました。

歯の健康を守るセメント

HY-BONDシリーズ

ハイ・ボンド シンクセメント

■用途
- インレー、クラウン、ブリッジの合着

■物性
破砕抗力▶1,450 24H後(kg/cm²)
被膜厚さ▶22μ
崩壊率▶0.05%

ハイ・ボンド カルボセメント

■用途
- インレー、クラウン、ブリッジの合着
- 窩洞の裏装 ●マルチバンドの固定
- 歯頸部知覚過敏症の処置
- 乳歯う蝕の暫間処置

■物性
接着強さ▶49kg/cm²(象牙質と金属とのつき合せ接着)
被膜厚さ▶17μ
崩壊率▶0.03%

ハイ・ボンド グラスアイオノマーC

■用途
- インレー、クラウン、ブリッジの合着
- 窩洞の裏装 ●マルチバンドの固定
- 支台築造 ●乳歯充填

■物性
破砕抗力▶2,000 24H後(kg/cm²)
接着強さ▶24kg/cm²(象牙質と金属とのつき合せ接着)
崩壊率▶0.30%
被膜厚さ▶25μ

ハイ・ボンド グラスアイオノマーF

■用途
- 5級、3級窩洞の充填 ●支台築造
- 窩洞の裏装 ●乳歯充填

■物性
破砕抗力▶2,300 24H後(kg/cm²)
接着強さ▶23.9kg/cm²(象牙質と金属とのつき合せ接着)
崩壊率▶0.31%

世界の歯科医療に奉仕する
株式会社 松風
本社●〒605京都市東山区福稲上高松町11・TEL(075)561-1112(代)●営業所●東京・湯島(03)832-4366～7・上野(03)835-4815～6●名古屋(052)763-2291～2●大阪(06)252-8141～3●福岡(092)472-7595

新製品

ハイテクニックを追求しつづけるオサダが、最新のエレクトロニクス技術をデンタルユニットに取り入れ、先生の診療を快適で高能率、メンテナンスの楽な簡潔化を計ったユニットに完成させました。

IC回路の採用により、例えばワークテーブルがぐっと薄くなり、先生方の胸上配置を可能にしました。又、ユニットの生命であるインスツルメントは全てオートクレーブ可能となりFPシステム(先取り優先)採用により、先生方がご使用中でも、他のバーの交換を流れに沿って助手が交換できるシステム等……技術に生きるオサダが、エレクトロニクスを診療機器に集結させ、先生方のご要望に応え、ここに登場しました。

※全国オサダショールームにてお手に取ってお試し下さい。

オサダの歯科機械
長田電機工業株式会社
東京都品川区西五反田5-17-5 ☎03(492)7651(代)

金属焼付ポーセレン用金合金

KIK HARD II

●硬度が210Hv と硬く、長いブリッジ・うすいクラウン等にも最適です。

●流動性が優れており容易に鋳造できます。

●焼成回数を重ねてもメタルの変形はほとんどありません。

主成分　金73%・銀2.8%・白金13%・パラジウム9.7%

諸性質　●溶融温度1240～1290℃　●比重17.8　●鋳造収縮1.34

	硬度Hv	引張強さkg/mm	伸び%
鋳造時	180	44	5
グレーズ時	210	46	5
硬化時	225	48	4

KIKポーセレンの他VITA・CERAMCO等のポーセレンに使用できます。

石福金属興業株式会社

歯内療法が楽しくできる!!

糊剤根管充塡材

ヨードホルム・水酸化カルシウムパスタ

ビタペックス®

［適応症］
抜髄および感染根管治療後の根管充塡に応用します．

［特　長］
- 特殊な方法でパスタ状に調整されていますので操作性に優れ，専用のシリンジで狭小な根管内にも緻密に充塡できます．
- エックス線造影性に優れ，長期にわたり変質しません．
- 根尖歯周組織の治療に対して好影響を与えます．

本格的な根管充塡用シーラー

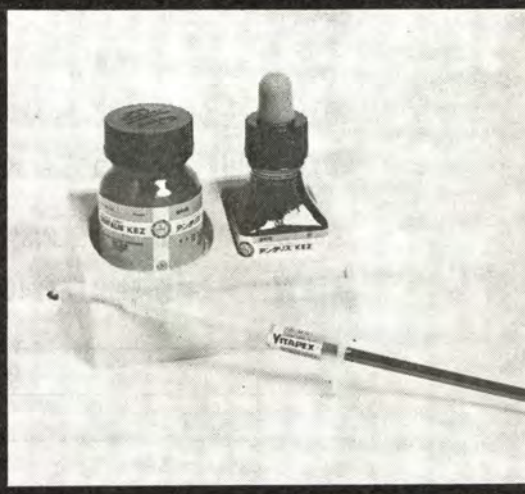
エンドドンティック　セメント

デンタリス® KEZ

ケー　イー　ゼット

デンタリス KEZ は根管充塡専用のシーラーとして開発された遅硬性のエンドドンティックセメントで，当社の新製品として登場いたしました．

特　長
- 根管壁およびガッタパーチャポイントに対するヌレが良く，根管腔を緊密に閉鎖します．
- 練和後根管内では5～7分で硬化しエックス線造影性を示します．
- pHをアルカリ性に調整し，炎症巣の鎮静化をはかったセメントです．
- ガッタパーチャポイントなどのシーラーとして適切です．
- ビタペックスとの同時積層根管充塡に際しては，硬化するセメントタイプの**デンタリス KEZ**をお奨め致します．



ネオ製薬工業株式会社
〒150 東京都渋谷区広尾3-1-3　Tel.(03)400-3768(代)

Dentronics.

寒天・アルギン酸 連合印象用器材

2 WAY SYSTEM

カートリッジWAYシリンジ

目的はひとつ、方法がふたつ！

カートリッジシステム

■カートロイド
- ブルー(軟)56本入　● ブラウン(標準)56本入

■カセロイド／詰替用寒天
- ブルー(軟)54本入　● ブラウン(標準)54本入

■カセッター／詰替器具（実用新案）
- 空麻酔用カートリッジを利用して詰替用寒天が簡単に詰められます。

■カートシリンジ
- 付属針―2S(細)、3S(標準)、3Sストレート
- オプション針―4S（太）、

■バスケット
- ステンレス製（IC・ポット用、IC・バス用）

本格的コンディショナー

IC·POT DX　3タイプ　全ステンレス製

●フルオート／沸騰・貯蔵 全自動
電子タイマー内蔵、スタートスイッチをワンタッチ、あとは沸騰から貯蔵まで全自動です。

●ボイル／沸騰槽
タイマー付、沸騰完了をブザーが報知します。

●ストレイジ／貯蔵槽
電子コントロールにより、貯蔵温度を正確に保持します。

IC·BATH 多目的電子保温槽／沸騰＋貯蔵
タイマー付、沸騰完了をブザーが報知します。槽は本体から着脱できます。

シリンジシステム

■デントロイド／寒天スティック
- ブルー(軟)54本入　● ブラウン(標準)96本入
- ピンク(硬)80本入

■カラーシリンジ
- レギュラー$\frac{5}{16}$（針―極細、細、標準）5種
- ダブル　12mm（針―太）……2種
- ジャンボ17mm（針―特太）……1種

●従来のIC・ポット、IC・バスをお使いの方がカートリッジを使用する場合
- カートロイド……1箱
- カセロイド／詰替用寒天……1箱
- カセッター／詰替器具……1個
- カートリシンジ……1本
- バスケット(IC・ポット用またはIC・バス用)……1個

連合印象用器材　■ラジアルピン（ポスト印象時の補強ピン）　■クルクル（歯科用ミキサー）　■カラーコード（歯肉圧排糸）

株式会社 デントロークス　〒160 東京都新宿区高田馬場1―10―19　TEL.(03)209―7121(代)

サンキン SMFPセメントグループ

Sankin

ユニデントSMFP
（水硬性カルボキシレートセメント）

カルロンSMFP
（カルボキシレートセメント）

コンフィットSMFP
（リン酸亜鉛セメント）

＊先生の用途にあわせてセットでお選びください。

ユニデント SMFP

ユニデントSMFPは、フッ素化合物(SMFP)と新たに開発したポリカルボン酸の配合により、破砕抗力、崩壊率、被膜度等の諸物性を向上させると共に、歯質との接着性を大巾に増強（歯科用金属に対しても優れた接着性を付与）水で練ることにより歯髄刺激の減少、操作性の向上(練和し易く、自由な粘稠度が得られます)と従来にない特長を備えた新時代にふさわしい水硬性カルボキシレートセメントです。

●物性

破砕抗力●850kg f /cm²
圧縮引張強度●70kg f /cm²
被膜度●0.012mm
崩壊率●0.02%
接着強度(エナメル質-金属)●61kg f /cm²

カルロン SMFP

カルロンSMFPは、フッ素化合物(SMFP)と新たに開発したポリカルボン酸の配合により、破砕抗力、崩壊率、被膜度等の諸物性を向上させると共、歯質との接着性を大巾に増強（歯科用金属に対しても優れた接着性を付与）させたカルボキシレートセメントです。

●物性

破砕抗力●830kg f /cm²
圧縮引張強度●70kg f /cm²
被膜度●0.012mm
崩壊率●0.02%
接着強度(エナメル質-金属)●60kg f /cm²

コンフィット SMFP

コンフィットSMFPは、フッ素化合物(SMFP)と、新たに開発したクリンカーの配合により、歯質および金属に対して優れた濡れを示し高い圧縮強度と相まって、優れた合着力と辺縁封鎖性を発揮するリン酸亜鉛セメントです。豊富な色調から歯牙の色にあった色調を選ぶことができます。

●物性

破砕抗力●1440kg f /cm²
被膜度●0.016mm
崩壊率●0.03%

SPM 三金工業株式会社
大阪本社 〒542 大阪市南区南船場3-3-10 ☎(06)244-0951代
東京本社 〒113 東京都文京区湯島3-14-9 ☎(03)834-5861代

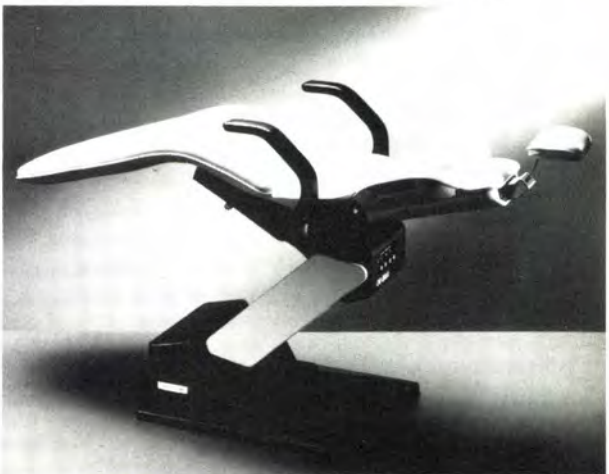
AXIS 90

DENTAL CHAIR

世界ではじめてパワー(油圧電動)ヘッドレストを実現。

スイッチひとつで、ヘッドレストが動きます。

タルチェアーの命といわれるヘッドレストが、スイッチひとつ
作できる〝電動〟になりました。
はラクな姿勢で口を大きく開けられるようになり、さらに
ーは自然な姿勢で、より広い口腔内視野が得られるように
たアクシス〝パワーヘッドレスト〟。電動油圧技術とIC技術
品した、90年代志向の新しいデンタルチェアーです。

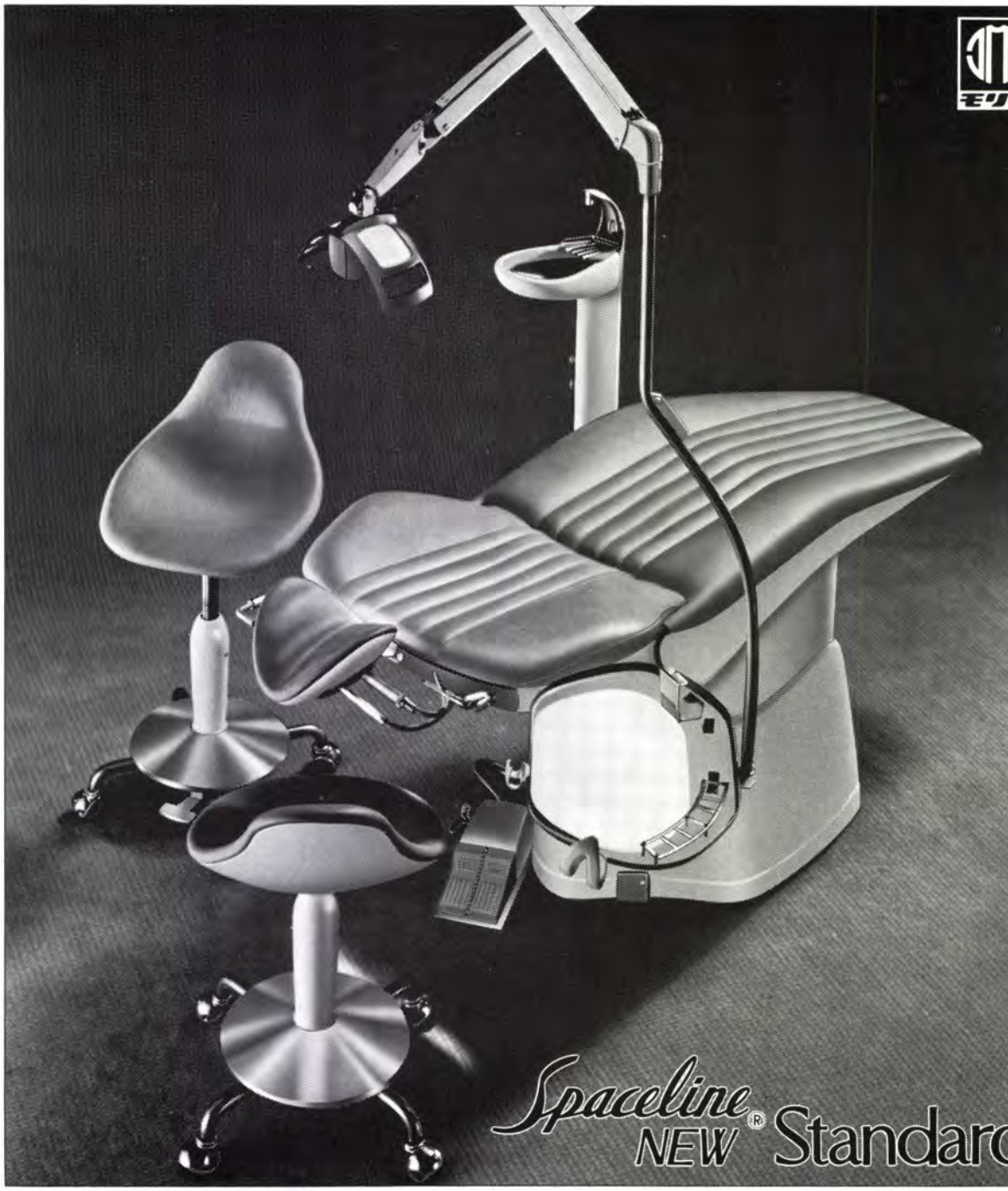


仕様

高 / 420mm●ストローク / 380mm●チルト / リクライニング連動チルト
●プリセット / 2ポジションメモリー方式●オプション / フートスイッ
降・寝起)　　※標準価格 980,000円

タカラベルモント

本社●大阪市南区島之内2-13-22 ☎(06)211-2831・大代表
支社●東京都港区赤坂7-1-19 ☎(03)403-0311・大代表



診療効率を高める究極の機能――ニュー スタンダード

診療の効率化が叫ばれているいまこそ、水平位診療の原点を極めたスペースラインが真価を発揮します。ニュースタンダードは、最新の電子技術で内部のメカニズムをグレードアップ。さらに、バキュームフィルターがハウジングの外側についてメインテナンスが楽になりました。

標準インスツルメント	ニュースタンダード	ニュースタ
エアーベアリングハンドピース アストロン〈AT-C〉	● ○	● ●
アストロンホース回路	●	● ●
マイクロモーターハンドピース トルックス〈TR-2ND〉	●	●
スリーウェイシリンジ	● ●	● ●
バキュームシリンジ	●	●
サライバエジェクター（シャットオフバルブ付）		●

○は予備ハンドピースを表わ

（外観および仕様などは改良のため予告なく変更することがありますのでご了承

21世紀のデンタルライフをひらく　株式会社モリタ　東京都台東区上野2丁目11番13号　〒110　☎(03)834-616
株式会社モリタ製作所　本社工場・京都市伏見区東浜南町680番地　〒612　☎(075)611-2141／久御山工場・京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190　〒613　☎(0774)43-
株式会社モリタ東京製作所　埼玉県与野市上落合355　〒338　☎(0488)52-1315

より良い補綴の〝決め手〟として積極的にご活用ください。

GC

GCの検査材

咬合接触検査を手軽に、的確に行える
ユニークなブラックシリコーン検査材です。

咬合接触検査材

バイトチェッカー《ブラックシリコーン》

用途●クラウン・ブリッジの口腔内での咬合接触状態検査／有床義歯製作各ステップでのチェック／歯周疾患における早期接触の発見／矯正における動的治療の経過観察／その他

練和し、下顎歯列咬合面に盛り、咬合させたバイトチェッカー●模型上、またはシャーカステン上で観察すると、接触部分が白く透け、咬合接触の位置と程度が一目瞭然です。

クラウンの内面や床粘膜面の〝適合状態〟は
ホワイトシリコーンでチェックします。

適合検査材

フィットチェッカー

用途●クラウン・ブリッジの内面と支台との適合状態の検査／義歯と粘膜の「アタリ」の部位とその程度の検査／鋳造ポストと根管壁との適合検査／その他

練和したフィットチェッカーを内面に盛り、試適・咬合させたブリッジ●「アタリ」の部分だけフィットチェッカーが薄くなり、金属色が透けるため、一目で判定できます。

隣接歯間の接触関係を
客観的に検査するためのゲージです。

接触点診査用

コンタクトゲージ

用途●クラウン・ブリッジと隣接歯間の接触関係の検査

試適された金属冠と隣接歯の間にコンタクトゲージを挿入●厚さの異なる3種のゲージ（緑色=50μ・黄色=110μ・オレンジ色=150μ）を順次挿入してみることにより、接触関係の良否が判定できます。

G-C DIC デンタルインフォメーションセンター

●北海道DIC011(271)7373㈹●東北DIC0222(71)8757㈹●東京DIC03(816)6480(直)●名古屋DIC052(703)3231㈹
●大阪DIC06(771)4682㈹●広島DIC082(255)1771㈹●九州DIC092(441)1286㈹
●新潟出張所0252(84)6622●徳島出張所0886(25)8244●長崎出張所0958(47)6104●鹿児島出張所0992(68)0070

而至歯科工業株式会社

歯科技工学科

理事長 歯学博士 大塚 昌助

校 長 歯学博士 大塚 弘介

東京歯科技工専門学校

TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

〒141 東京都品川区西五反田5－1－10（東急目蒲線不動前徒歩2分） TEL 03(492) 4221(代)

歯科鋳造用銀合金（銀・インジウム系）
クラウン・インレー・ブリッジ・
レジン前装冠・継続歯用 ニュータイプ

サリバン

パラエイト　タフネス

- 口腔内での耐変色性が非常に優れています。
- 縁端強度が充分あります。
- 適合性が抜群です。
- 鋳造性が良く、鋳肌も良好です。
- 生体組織に対する親和性が抜群に優れております。

日本歯研工業株式会社

本　　社：〒141 東京都品川区西五反田5-1-10 ☎03(492)0927(代)
支　　社：〒553 大阪市福島区海老江1-5-67 ☎06(458)7071(代)
上野営業所：〒101 東京都千代田区外神田6-10-6
吉岡歯材ビル2F ☎03(831)7031・7033